同志社大学
2023 年度卒業論文

論題：大学生の生活満足度とその規定要因

学生 ID：1109201089
氏名：松田　心
指導教員：立木　茂雄
総文字数：21,293 字

要旨

本研究では，近年社会的関心が高まっている幸福度・生活満足度に注目し，以前まで幸せや豊かさの指標となっていた経済的指標以外も用いて人々の幸せについて検討した．具体的には，若者特に大学生の生活満足度とその規定要因についてと，若者の幸せに対する価値観について調査を行なった．

その結果，大学生の生活満足度を規定する要因として，経済的充足度と周囲の人々との関係性が重要であることが示された．また，大学生の本分である学業の充足度と生活満足度との間には，有意な結果は見られなかった．

また幸せに対する価値観においては，「精神的ゆとり」が生活満足度を判断する際の項目として重視されており，精神的なゆとりを測る指標である「くつろぎ感情の充足」と生活満足度の間にも有意な正の相関が見られた．また，面白さや楽しさといった「喜び感情の充足」や「自己決定感」と生活満足度の間にも有意な正の相関が見られ，現在の大学生は，穏やかな日本的な価値観だけでなく，覚醒度が高く自己達成的な欧米的価値観も合わせ持っていることが考えられた．

キーワード：大学生，生活満足度，規定要因

目次

1　はじめに 3

1.1　問題背景 3

⑴ 「幸せ」への関心 3

⑵ 現在の日本社会における幸福 3

1.2　先行研究 3

1.3　本研究の位置付けと目的 4

2　方法 5

2.1　調査概要 5

2.2　調査項目 5

⑴　フェイスシート 5

⑵　説明変数 5

⑶　被説明変数 10

3　結果 12

3.1　回答者の属性 12

3.2　単純集計 12

⑴ 生活満足度 12

⑵ 説明要因 14

3.3　生活満足度とその規定要因の関連分析 24

⑴ 生活満足度 24

⑵ 各説明要因と生活満足度 25

4　考察 38

生活満足度の規定要因 38

5　おわりに 39

謝辞 40

参考文献 40

1　はじめに

1.1　問題背景

⑴ 「幸せ」への関心

「幸せ」とは何かは，古代ギリシャの時代から現代社会まで続く，人々の大きな関心ごとである．書店へ行けば多くの How to 本や自己啓発本が並んでおり，「幸せ」や「よい暮らし」に対して多くの人から関心が向けられていることがわかる．

学術面においても国内外で「幸せ」について多くの研究が行われている．その一例として，社会経済がある程度成熟した社会では，経済成長が成長しても人々の幸福度は向上しないといういわゆる「幸福のパラドックス」がある．国際連合や OECD（経済協力開発機構）などの国際機関においても，GDP などといった経済的指標以外の指標で「幸せ」や「豊かさ」を考える試みが行われている．2012 年には，150 以上の国・地域を対象に GDP，社会的支援，平均寿命，人生選択の自由度，寛容さ・気前の良さ，腐敗の認識といった 6 つの変数の幸福度に対する寄与を分析した「World Happiness Report（世界幸福度報告）」が国際連合組織によって出版された．

現在も，様々な幸福度研究や指標づくりが行われており，「幸せ」や「豊かさ」に対する人々や社会の関心の高さが伺える．

⑵ 現在の日本社会における幸福

それでは，現在の日本社会において，「幸せ」や「豊かさ」はどのように捉えられているのだろうか．

現在は多様化する社会と言われるように，個々人のライフスタイル，価値観などが以前と比べて尊重されるようになってきた．このことは，それまで人々が共通して持っていた「幸せ」へのイメージが多様化していることを意味する．白石(2010)は，日本における幸せの捉え方として，総中流意識，いわゆる「勝ち組」思想の勝間和代ブーム，平凡で穏やかな暮らしを挙げ，社会に存在する幸せの現実は一つであるが，その現実の捉え方，つまり人々の幸せに対する考え方・感じ方が時代や社会において異なることを指摘している．

たとえば，急激な経済復興を遂げた高度経済成長の社会状況下では，物質的・経済的なものに対して，幸福や豊かさを感じやすいだろう．一方，バブル崩壊後の「失われた 30 年」と言われる不況の状況下，同時にすでに多くのモノに満たされた社会では，物質的・経済的なものに対して幸福や豊かさは感じにくいと考えられる．若者と中年では若者の幸福感に関する先行研究では，「精神的豊かさ」が若者の幸福感に強く影響を与えていることが示されている（南 2015）．

1.2　先行研究

そんな現代を生きる若者たちは，「幸せ」をどのように捉えているのだろうか．

古市（2015）によると，現代の若者にとって，少子高齢化や財政赤字，領土問題をはじ

めとした他国とのトラブルなど様々な問題を抱える日本の状況は決して恵まれたものとは言えず，明るい未来も描きにくいと考えられる．しかし，そのような状況にも関わらず，若者の生活満足度が高いことが明らかになっている．なぜ恵まれない状況にいるはずの若者達の生活満足度は高くなっているのだろうか．

古市は，「今よりもずっと幸せになる将来」を想定できるかが現在の生活満足度に影響を与えていることを指摘し，将来に希望が持てないがゆえに，現状に満足しているという逆説的な幸福感の仮説を提唱した．そして古市は，そのような将来に過度な期待をせず，また身近な幸せを大切にするコンサマトリー（自己充足的）な若者たちが「幸福な若者」の正体だと述べた．

この点に関して，南（2015）は，「幸せへの動機付け」「将来や今に対する価値観」「コンサマトリーな価値観」といった幸福に対する価値観と幸福感の関係性について検証し，将来的に無関心な「現状満足」群の若者が必ずしも主観的幸福感が高いとは言えないことを示した．この結果から南は，将来への期待の薄さによって現状の生活満足度が高くなるという古市の仮説を否定した．また南は，比較的物質的に恵まれており，インターネットやスマートフォンなどの普及による利便性を享受できている現代の若者たちが幸せだと感じるのは，若者が持つ将来への見通しに関わらず，当然のことであると指摘した．そして，若者を取り巻く様々な要因が，それぞれどの程度幸福感に影響するのかを実証的に検討することが今後の課題であるとした．

岩田（2015）も，若者を取り巻く環境は様々な面において厳しさを増しているにも関わらず，若者の生活満足度は低下していないこと，また幸福感においても明らかな低下傾向は見られないことを指摘した．そこで岩田は，2010 年 9 月に日本の 26 大学，2631 名の大学生を対象に「大学生の生活満足度」調査を行い，生活満足度の規定要因の検討を行った．その結果，現在の暮らしむきや将来への見通しの悪さといった経済的な要因が強く生活満足度に影響を及ぼしていること，また同時に，恋人や友人との関係など人間関係の良好さが重要な規定要因となっていることが分かった．それらのことから岩田は，「雇用環境や経済的な見通しの悪化によって押し下げられた生活満足度を，人間関係の良好さが押し上げることによって，生活満足度が維持されていると考えることができる」と述べた．

これらの先行研究では，幸福に対する価値観と幸福感，周囲の諸要因と生活満足度というように，それぞれ独立した幸福度・生活満足度の研究が行われていた．しかし，どのような状態を幸せと感じるかによって幸福感や生活満足度の度合いが異なること，またその価値観は所属する社会に大きく影響を受けることを考慮すると，単純に周囲の諸要因と生活満足度の関係を見るだけでは，生活満足度の規定要因を検討することは難しいと言えるのではないだろうか．また学生といっても，大学生活が始まったばかりの 1 年生と大学生活の終わりを迎える 4 年生を同じ「大学生」として一括りに見なすのは少々乱暴であろう．

1.3　本研究の位置付けと目的

そこで本論文では，先行研究を基に学生たちを取り巻く様々な要素や個々人の価値観の調査を行い，大学生の生活満足度とその規定要因について検討する．特に学年や生活

満足度を判断する際に重視した項目などといった，これまでの先行研究では検討されていなかった要素や価値観と生活満足度の関係にも注目し検討していく．

2　方法

2.1　調査概要

調査は 2023 年 11 月下旬から 12 月上旬にかけて Google Form を用いて行い，同志社大学の学生を中心とする大学生 94 名から回答を得た．回答者の内，欠損値を除いた大学生 91 名（男性 29 名，女性 62 名）を分析対象とした．回答はすべて数値化し，統計解析ソフト SPSS を用いて分析を行なった．

2.2　調査項目

調査票の構成は以下の通りである．

⑴ フェイスシート

フェイスシートとして，性別，学年，所属学部，居住環境を尋ねた．

⑵ 説明変数

次に生活満足度の説明変数として，「経済的余裕」「アルバイト」「所属大学」「学業の充実」「部活やサークル」「友人関係」「交際関係」「家族関係」「政治・行政」の 9 分野と，「将来不安」「期待水準」「自己決定感」「幸福感（自己価値向上）」「くつろぎ感情」「喜び感情」の 6 項目を尋ねた．下記の表 1-1，表 1-2 に質問項目を記した．各説明変数の設定理由は以下の通りである．

大学生の生活満足度に関する先行研究である岩田の調査では，重回帰分析の結果，「暮らし向きの余裕（$\beta = .158, p < 0.01$）」,「アルバイトの有無（$\beta = .040, p < 0.05$）」,「所属大学が第一志望か（$\beta = .075, p < 0.01$）」,「親友・親しい友人数（$\beta = .058, p < 0.01$）」,「交際相手の有無（$\beta = .115, p < 0.01$）」,「家族との関係性（$\beta = .107, p < 0.01$）」,「スポーツや趣味の活動の充実（$\beta = .075, p < 0.01$）」,「将来不安（$\beta = .150, p < 0.01$）」,「自己の特技・才能認識（$\beta = .053, p < 0.01$）」,「居住地域への満足（$\beta = .0115, p < 0.01$）」の項目が大学生活満足度に影響を与えていることが示された．これらの結果から，経済状況や居住環境といった生活環境要因や，友人関係や交際関係といった人間関係要因，娯楽活動要因などが大学生活満足度に関連していることが分かる．

本調査では，岩田の調査を基に「経済的余裕」「アルバイト」「所属大学」「部活やサークル」「友人関係」「交際関係」「家族関係」「将来不安」「期待水準」を説明変数の分野・項目として設定した．また先行研究の結果から，満足度を規定する要因として人間関係に関する要素が重要なこと，特に若者においてはその影響が大きいと考えられることから，人間関係の良好度合いを「アルバイト」の分野の充足を測る質問項目として追加した．

小川・園田（2019）は，岩田が生活満足度の規定要因として設定しなかった学業成績や学習動機の在り方といった大学生の本業への取り組み態度・結果にも注目し，「前期成績満足度」と「学習動機」を調査項目に加え，大学生活満足度への影響を検討した．その結果，男女問わず「前期成績満足度」と「大学生活満足度」の間に有意な正の相関が見られた（女性：$r = 0.325$, $p < 0.01$ 男性：$r = 0.291$, $p < 0.01$ ）．また，「学習動機」の高低と「大学生活満足度」の間にも弱くはあるものの正の相関が見られた（女性：$r = 0.199$, $p < 0.01$ 男性：$r = 0.149$, $p < 0.01$ ）．そのため本調査では，「学業の充実」を生活満足度の説明変数と仮定し，学業の充足度を測る項目として「学業の楽しさ」と「学業意欲」を質問項目に加えた．

西村・八木は（2018）は，自己決定が所得や学歴よりも幸福感を決定する要因として強く影響していることを示し，自身で人生の選択をすることが選んだ行動の動機づけと満足度を高め，それが幸福感を高めることにつながると考察した．世界幸福度報告（World Happiness Report）でも「人生選択の自由度」が幸福度の説明変数として用いられている．これらのことから，本論文では自身の自己決定の充足感を「自己決定感」として説明変数に加えた．

加えて，前述の世界幸福度報告（World Happiness Report）では、「腐敗の少なさ」が幸福度の説明変数の一つとされていること，また内閣府による満足度・生活の質に関する調査（2023）でも「政治・行政・裁判所への信頼感」が生活満足度の説明変数として有意な正の関連が見られている．そのため，本論文では「選挙の参加度合い」と「民意の反映感」を政治・行政の分野の項目として質問項目に加えた．

また，幸福度に関する先行研究では，「幸せ」へのアプローチとして，喜びを達成し苦痛を回避できていることを幸せとみなす「快楽主義（hedonism）」と，アリストテレスの見解に沿った人間としてよく生きること（living-well）を幸せとみなす「幸福主義（eudaimonism）」の２つが挙げられている．浅野・五十嵐・塚本（2014）は，快楽の中でも覚醒度の高いポジティブな感情を「喜び」，覚醒度の低いポジティブな感情を「くつろぎ」と設定し，日本版 HEMA 尺度の検証を行なった．このことから，本論文では，自己価値の向上を「幸福感」，気楽さややすらぎといった覚醒度の低いポジティブな感情を「くつろぎ感情」，楽しさや面白さといった覚醒度の高いポジティブな感情を「喜び感情」と設定し，説明要因として質問項目に加えた．

表 1-1　説明要因　質問項目１

分野	質問項目	回答選択肢
経済的余裕	あなたは生活において金銭的に余裕がある方だと思いますか	1.余裕がない 2.あまり余裕がない 3.どちらとも言えない

		4.やや余裕がある 5.余裕がある
	あなたが自由に使えるお金は平均して１ヶ月あたりどの程度ありますか	1.10,000 円未満 2.10,000 円～20,000 円未満 3.20,000 円～30,000 円未満 4.30,000 円～40,000 円未満 5.40,000 円～50,000 円未満 6.50,000 円～60,000 円未満 7.60,000 円以上
アルバイト	アルバイトの有無について教えてください	1.現在している 2.したことがある（現在はしていないが以前はアルバイトをしていた） 3.したことがない
	アルバイトの業務内容にやりがいや楽しみを感じますか	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.どちらとも言えない 4.やや当てはまる 5.当てはまる
	アルバイト先の人間関係は良好ですか	1.不良 2.やや不良 3.普通 4.やや良好 5.良好
所属大学	自身の所属大学は一般的に高く評価されていると思いますか	1.そう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらとも言えない 4.ややそう思う 5.そう思う
	自身が所属している大学は第一志望だった大学ですか	1.第一志望 2.第一志望ではない

学業の充実	大学の授業は総合的に楽しいと感じますか	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.どちらとも言えない 4.やや当てはまる 5.当てはまる
	大学の学習に自ら取り組んでいますか	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.どちらとも言えない 4.やや当てはまる 5.当てはまる
友人関係	仲の良い友人は何人いますか	人数を自由記述
	ご友人とどのくらいの頻度で交流していますか	1.ほぼ毎日 2.週に 3, 4 回 3.週に 1 回 4.月に 2,3 回 5.月に 1 回 6.年に数回 7.該当者なし
	困った時に頼れる友人はいますか	0.いない 1.いる
交際関係	現在交際相手はいますか	0.いない 1.いる 2.回答しない
	これまでの交際経験の有無について教えてください	0.交際経験なし 1.交際経験あり 2.回答しない
家族関係	家族と過ごす際，心地よさを感じますか	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.どちらとも言えない 4.やや当てはまる 5.当てはまる
	困った時に頼れる家族や親戚はいますか	0.いない 1.いる

部活やサークル	部活やサークルに所属していますか	0.所属していない 1.所属している 2.所属していた
	部活やサークルの活動内容にやりがいや楽しみを感じますか	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.どちらとも言えない 4.やや当てはまる 5.当てはまる
	部活やサークルの人間関係は良好ですか	1.不良 2.やや不良 3.普通 4.やや良好 5.良好
政治・行政	これまでの選挙投票にどの程度参加していますか	1.全く参加していない ２.参加したことがある 3.ほとんど参加している 4.選挙権を得てからは毎回参加している
	一般市民の声は日本の行政や司法に十分に反映されていると思いますか	1.そう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらとも言えない 4.ややそう思う 5.そう思う

表 1-2　説明要因　質問項目 2

分野	質問項目	回答選択肢
将来不安	将来に対してどの程度不安に感じていますか	1.かなり不安 2.やや不安 3.どちらとも言えない 4.あまり不安ではない 5.全く不安ではない

期待水準	将来社会的に高い地位につきたいと思いますか	1.そう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらとも言えない 4.ややそう思う 5.そう思う
自己決定感	あなたは自身の人生を自由に選択できていると思いますか	1.そう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらとも言えない 4.ややそう思う 5.そう思う
幸福 （自己価値向上）	あなたは普段，学習や技術の向上といった自己価値の向上に取り組んでいますか	1.そう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらとも言えない 4.ややそう思う 5.そう思う
くつろぎ感情	あなたは普段「気楽さ」や「やすらぎ」「くつろぎ」などを十分に感じていると思いますか	1.そう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらとも言えない 4.ややそう思う 5.そう思う
喜び感情	あなたは普段「喜び」や「楽しさ」「面白さ」などを十分に感じていると思いますか	1.そう思わない 2.あまりそう思わない 3.どちらとも言えない 4.ややそう思う 5.そう思う

⑶ 被説明変数

被説明変数となる大学生の生活満足度を測る尺度として，「主観的生活満足度」，「人生満足度尺度」，「協調的幸福感尺度」３つの尺度を用いた．

１つ目として，「あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか」と１項目のみで生活満足度を測る主観的生活満足度を使用した．「全く満足していない」の０点から「非常に満足している」の 10 点の 11 件法で回答を求めた．

また生活満足度を判断する際に重視する項目は何か，藤井（2021）の調査を参考に，家計の状況，仕事（アルバイト），健康状況，自由な時間，充実した余暇，学業の充実，精神的なゆとり，趣味や社会貢献などの生きがい，家族関係，友人関係，職場の人間関係，地域コミュニティとの関係，政治・行政，の 13 項目とその他（自由記述）を選

択肢として尋ねた．表 2-1 に使用した質問項目を記す．

また，満足感・幸福感は多様な観点から構成されるものであり，単一項目ではなく複数の項目から測定する必要がある．そのため，本論文では，Diener によって作成された人生満足度尺度と，内田によって作成された協調的幸福感尺度のうち 5 項目を，より多角的な視点から生活満足度を測定するための項目として用いた．

Diener による人生満足度尺度は，幸福研究でも頻繁に用いられている尺度である．「ほとんどの面で，私の人生は理想に近い」などの 5 項目の質問に対して，本来は「全くそう思わない」から「非常に強くそう思う」の 7 件法で答えを求めるものだが，今回は回答者の負担を軽減させるために「そう思う」から「そう思わない」の 5 件法で尋ねた．

「人生満足度尺」について信頼性分析を行なったところ，クロンバックの α 係数は 0.779 であり十分な内的整合性が認められた．よって，この 5 項目の合計点をもって人生満足得点とする．表 2-2 に使用した質問項目を記す．

内田による協調的幸福感尺度は，前述のような尺度では測ることのできない，日本人の価値観や幸福感を反映させるために作成された尺度である．「自分だけでなく，身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う」などの 7 項目の質問に対して「非常に当てはまる」から「全く当てはまらない」の 5 件法で回答を求める．開発者の内田（2020）は「日本人は穏やかで，人並みの，また自分だけでなく他者とともに実現される幸福感が重要になることも多く，人生満足感尺度ではあまりうまく日本の幸福感が捉えられない可能性がある」と述べている．本論文では，協調的幸福度尺度のうち 5 項目を生活満足度を測る尺度の一つとして使用した．

「協調的幸福感尺度」について信頼性分析を行なったところ，クロンバックの α 係数は 0.800 であり十分な内的整合性が認められた．よってこの 5 項目の合計点をもって協調的幸福感得点とする．表 2-3 に使用した質問項目を記す．

また人生満足度尺度と主観的生活満足度，協調的幸福度と主観的生活満足度の関係性を見ていくことで，幸福観と生活満足度がどのように関係しているかも見ていく．

表 2-1　主観的生活満足度と重視する項目

主観的生活満足度
あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか（0~10 の 11 段階）
重視する項目
生活満足度を判断する上で特に重視した項目は何ですか．以下の選択肢から上位 3 つをお答えください
家計の状況，仕事（アルバイトも含む），健康状態，自由な時間，充実した余暇，教育・学業の充実，精神的なゆとり，趣味や社会貢献などの生きがい，家族関係，友人関係，職場（アルバイト先）の人間関係，地域コミュニティとの関係，政治・行政，その他（自由記述）

表 2-2　人生満足度尺度の項目（５段階尺度）

人生満足度尺度（α＝0.779）
ほとんどの場面で私の人生は私の理想に近い
私の人生はとても素晴らしい状態だ
私は自分の人生に満足している
私はこれまで自分の人生に求める大切なものを得てきた
もう一度人生をやり直せるとしても，ほとんど何も変えないだろう

表 2-3　協調的幸福感尺度の項目（５段階尺度）

協調的幸福感尺度（α=0.800）
自分だけでなく，身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思いますか
周りも人に認められていると思いますか
人に迷惑をかけずに自分のやりたいことが出来ていると思いますか
まわりの人たちと同じくらい幸せだと思いますか
まわりの人並みの生活は手に入れている自身があると思いますか

3　結果

3.1　回答者の属性

分析対象の91名の内，男性は29名，女性は62名であった．学年別に見ると，1年生が15名，2年生が8名，3年生が15名，4年生が50名，その他が3名であった．

所属学部別に見ると，同志社大学生60名の内，文学部学生が6名，社会学部学生が22名，法学部学生が7名，経済学部学生が8名，商学部学生が5名，政策学部学生が1名，理工学部学生が4名，生命医科学部学生が1名，スポーツ健康科学部学生が3名，グローバル地域文化学部学生が3名であった．また同志社大学以外の学生31名の内，人文科学系の学部に所属する学生が2名，社会科学系の学部に所属する学生が8名，工学系の学部に所属する学生が1名，農学系の学部に所属する学生が2名，看護学や薬学などの保健系の学部に所属する学生が4名，栄養学や生活環境などの家政系の学部に所属する学生が2名，教育系の学部に所属する学生は6名，デザインや音楽などの芸術系の学部に所属する学生は6名であった．

また，居住環境別に見ると「実家」と答えた学生が62名，「一人暮らし」と答えた学生は27名，母親と同居している学生が2名であった．

3.2　単純集計

⑴ 生活満足度

生活満足度の集計結果は以下の通りである．（）で示している数値は回答者全体のう

ち占める割合を示している．

① 「主観的生活満足度」

主観的生活満足度の分布は図1-1の通りである．平均値は7.53点，分散は2.896，標準偏差は1.702であった．また最頻値は8点（26.4%），ついで7点（25.3%），9点（14.3%）となっており，全体の89%が6点～10点の間に分布している．

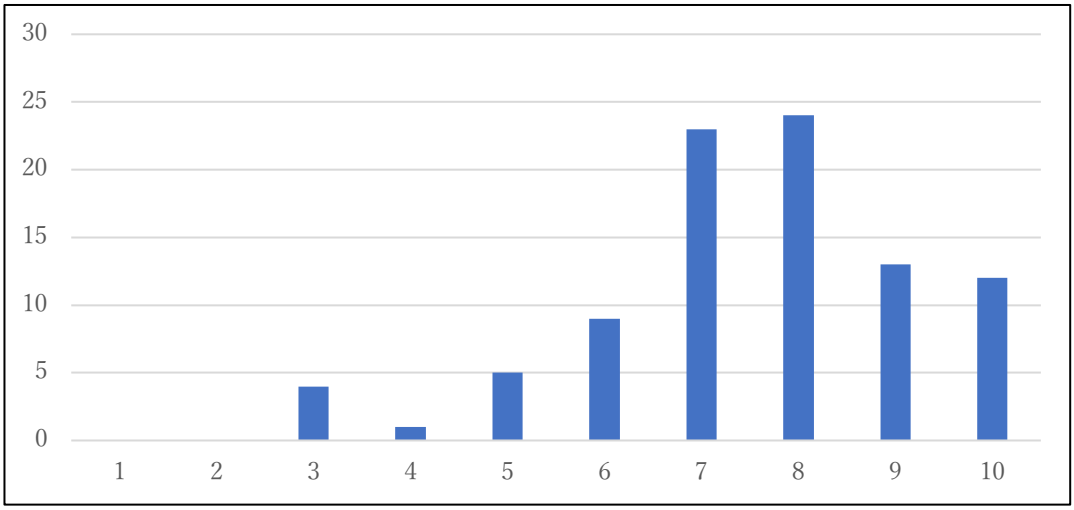


図1-1　主観的生活満足度の分布

② 「人生満足度」

人生満足度の分布は図1-2の通りである．平均値は18.07点，分散は18.640，標準偏差は4.317であった．また最頻値は14点（11%）であり，全体の68.1%が16点から25点の間に分布している．

③ 「協調的幸福感」

協調的幸福感の分布は図1-3の通りである．平均値は19.14点，分散は14.746，標準偏差は3.840であった．また最頻値は20点（15.4%）であり，全体の70.2%が16点から25点の間に分布している．

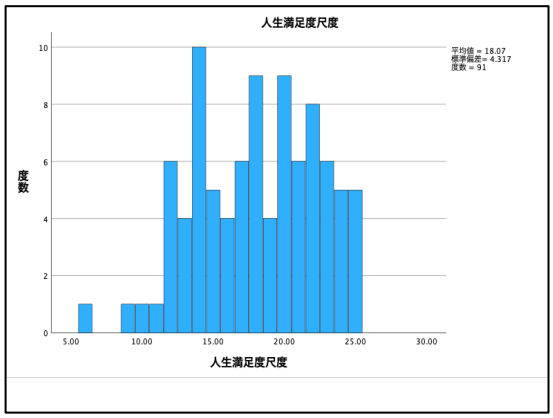


図 1-2　人生満足度尺度分布

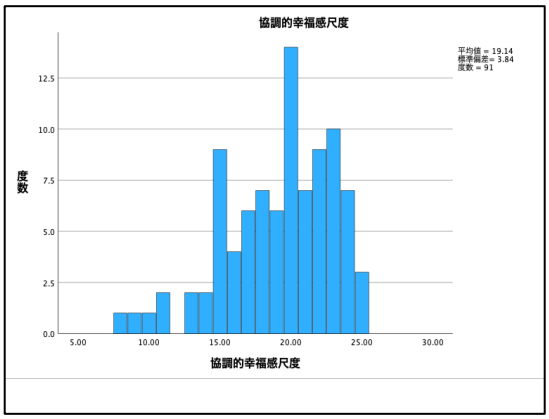


図 1-3　協調的幸福感尺度分布

また生活満足度を判断する際に重視した項目では，「友人関係」が57（62.6%）と最も多く，「精神的なゆとり」が40（44%），「自由な時間」が32（35.2%），「健康状態」が31（34.1%）と続いた(図1-4).

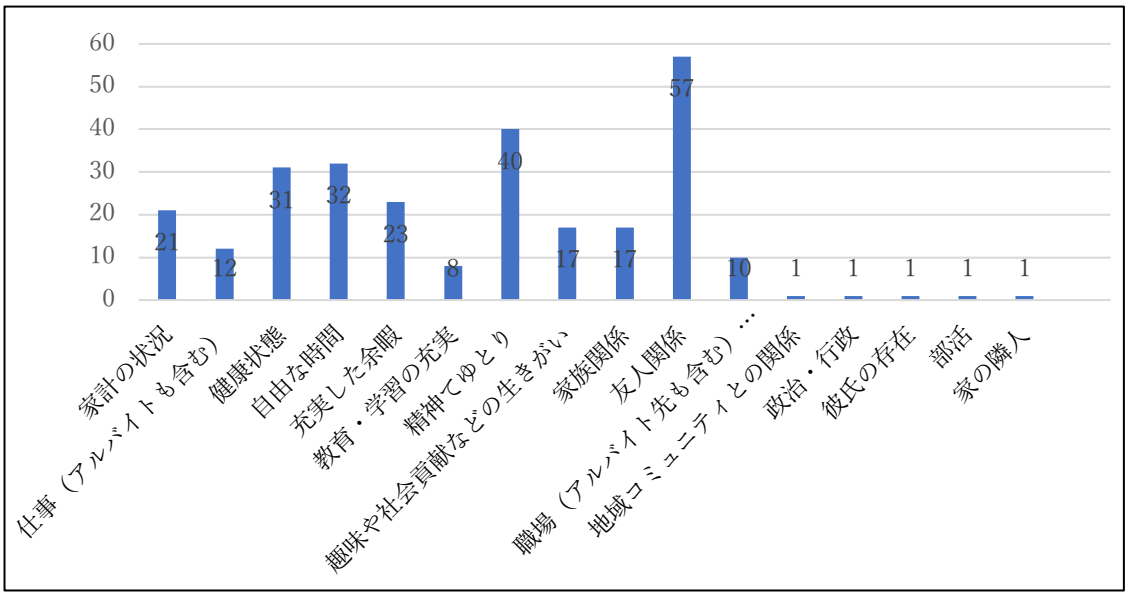


図1-4　生活満足度を判断する上で重視した項目

⑵ 説明要因

各説明要因の集計結果は以下の通りである．() で示している数値は有効な回答全体のうち占める割合を示している．

⑵-1 経済的余裕

集計結果の度数分布は図 2-1-1，図 2-1-2 に示した．

「金銭的に余裕があると思いますか」という質問に対し，「余裕がない」と答えた学生の数は10人（11%），「あまり余裕がない」と答えた学生は21人（23.1%），「どちらとも言えない」と答えた学生は10人（11%），「やや余裕がある」と答えた学生は33人（36.3%），「余裕がある」と答えた学生は17名（18.7%）であった．

「１ヶ月あたりに自由に使えるお金の金額」を尋ねたところ，「1万円未満」と答えた学生は5人（5.5%），「1万～2万円」と答えた学生は15人（16.5%），「2万～3万円」と答えた学生は18人（19.8%），「3万～4万円」と答えた学生は12人（13.2%），「4万～5万円」と答えた学生は7人（7.7%），「5万～6万円」と答えた学生は10人（11%），「6万円以上」と答えた学生は24名（26.4%）と最多であった．

また，金銭的な余裕の有無と１ヶ月あたり自由に使えるお金の関連について分散分析を行なった結果，自由に使えるお金が多いほど，金銭的な余裕があることが分かった（$F=4.600$ $p<0.001$）．

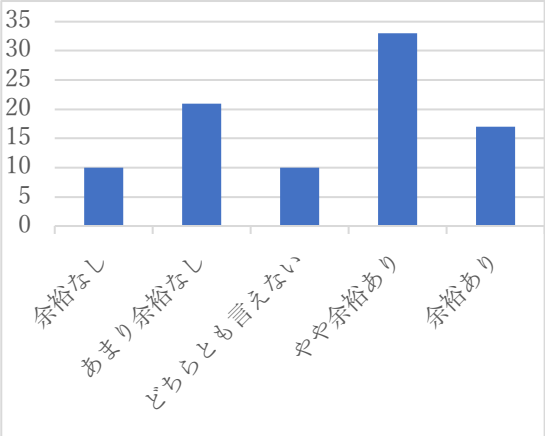


図 2-1-1　金銭的余裕

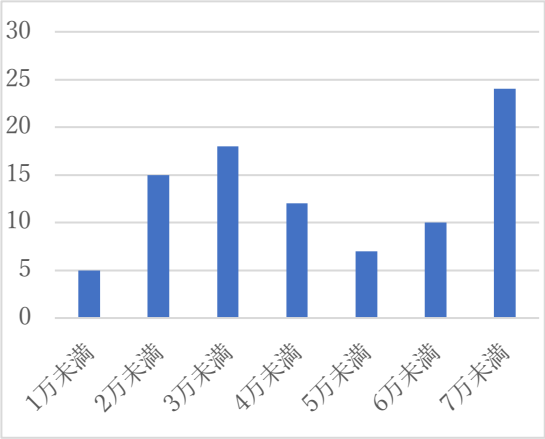


図 2-1-2　自由に使えるお金の金額

⑵-2 アルバイト

集計結果の度数分布は図 2-2-1，図 2-2-2，図 2-2-3 に示した．

対象者91名の内，現在アルバイトを行なっている学生は78人（85.7%），現在は行なっていないが以前アルバイトを行なっていた学生は11人（12.1%），アルバイトをしたことがない学生2人（2.2%）であった．

「アルバイト先の業務内容にやりがいや楽しみを感じますか」という質問に対し回答を行なった79名の内，「当てはまらない」と答えた学生は3人（3.8%），「あまり当てはまらない」と答えた学生は8名（10.1%），「どちらとも言えない」と答えた学生は4名（5.1%），「やや当てはまる」と答えた学生は29名（36.7%），「当てはまる」と答えた学生は35名（44.3%）であり，８割以上の学生はアルバイト先の業務にやりがいや楽しみを感じていることが分かった．

「アルバイト先の人間関係」において，「不良」と答えたのは1人（1.3%），「やや不良」と答えたのは1人（1.3%），「普通」と答えたのは7人（8.9%），「やや良好」と答えたのは23人（29.1%），「良好」と答えたのは47人（59.5%）であり，約9割の学生がアルバイト先の人間関係において「やや良好」「良好」と答えた．

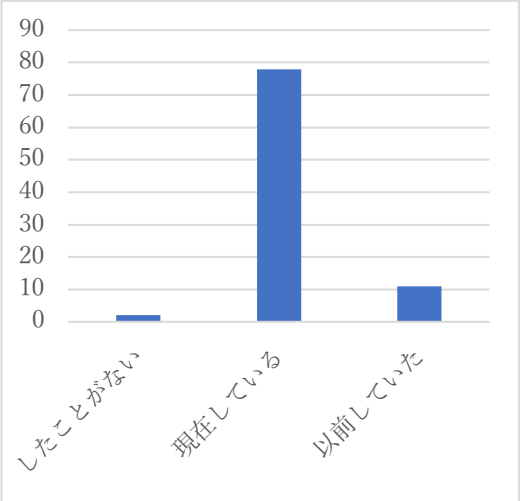


図 2-2-1　アルバイト経験の有無

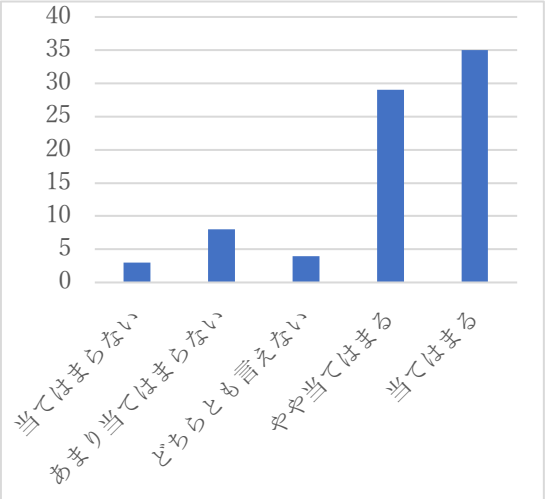


図 2-2-2　アルバイト先の業務内容にやりがいや楽しみを感じますか

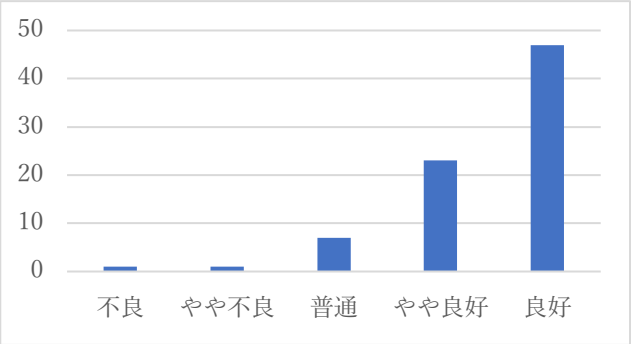


図 2-2-3　アルバイト先の人間関係

⑵-3 所属大学

集計結果の度数分布は図 2-3-1，図 2-3-2 に示した．

「自身の大学は一般的に高く評価されていると思いますか」という質問に対して「そう思わない」と答えた学生は3人(3.3%),「あまりそう思わない」と答えた学生は9人(9.9%),「どちらとも言えない」と答えた学生は8名（8.8%），「ややそう思う」と答えた学生は38名（41.8%），「そう思う」と答えた学生は33名（36.3%）であった．

「自身の所属大学は第一志望かどうか」の質問に対して「第一志望」と答えた学生は58人（63,3%），第一志望ではないと答えた学生は33人（36.7%）であった．

また，所属大学志望度と自身の大学の社会的評価の関連を見てみると，第一志望の大学に所属している学生の方が，自身の大学の社会的評価が高かった（F=9.143 p=0.003）．

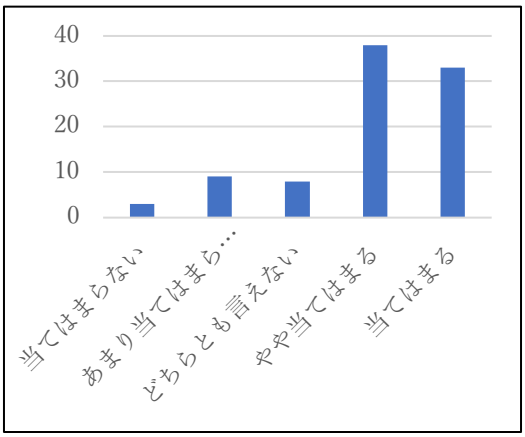


図 2-3-1　所属大学の社会的評価

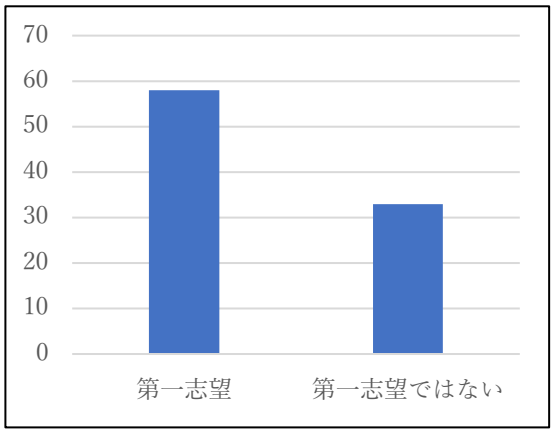


図 2-3-2　所属大学の志望度

⑵-4 学業の充実

集計結果の度数分布は図 2-4-1，図 2-4-2 に示した．

「大学の授業は楽しいと感じますか」という質問に対して，「当てはまらない」と答えた学生は 7 名（7.7%），「あまり当てはまらない」と答えた学生は10名（11%），「どちらとも言えない」と答えた学生は18名（19.8%），「やや当てはまる」と答えた学生は39名（42.9%），「当てはまる」と答えた学生は17名（18.7%）であり，6 割以上の学生は学習内容に楽しみを感じていることが分かった．

「大学の学習に自ら進んで取り組んでいますか」という質問に対して「当てはまらない」と答えた学生は10名（11%），「あまり当てはまらない」と答えた学生は21名（23.1%），「どちらとも言えない」と答えた学生は19名（20.9%），「やや当てはまる」と答えた学生は25名（27.5%），「当てはまる」と答えた学生は16名（17.6%）であった．

学習の楽しさと学習意欲の関連を見てみると，大学の学習に対して楽しさを感じている学生ほど大学の学習に意欲的に取り組んでいることが分かった（F=14.082 p<0.001）．

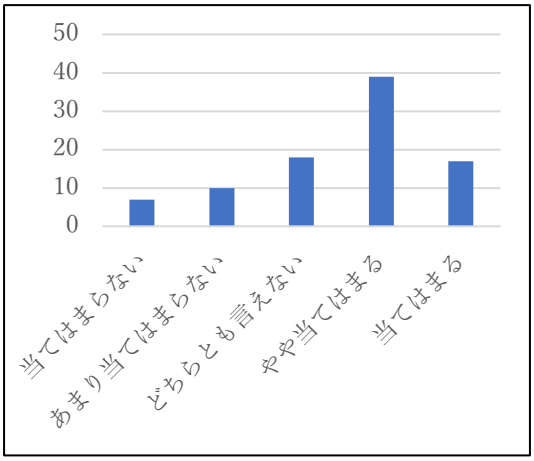


図 2-4-1　学業の楽しさ

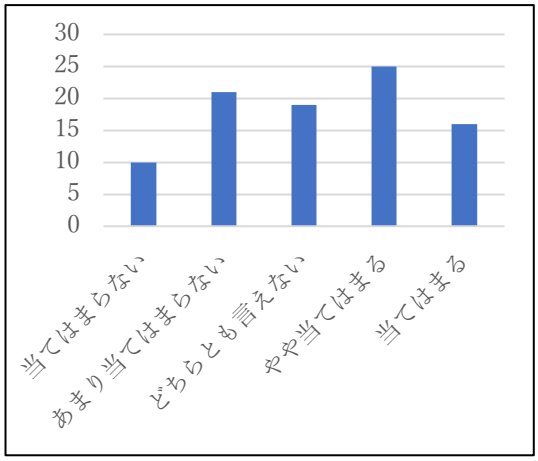


図 2-4-2　学習意欲

⑵- 5 友人関係

集計結果の度数分布は図 2-5-1，図 2-5-2，図 2-5-3 に示した．

「仲の良い友人の数」を記述方式で尋ねた，集計結果は図2-5-1の通りである．平均値は11.97人であり，最頻値，中央値は共に10人であった．最頻値は10人（22.5%）に次いで，5人（20.2%），3人（13.5%）と 1 桁が続き，仲の良い友人の数を10人以内の数で答えた学生の割合は71.9%であった．しかし，中には80人（1.1%），85人（1.1%）という回答も見られた．仲の良い友人の数を85人と回答した学生に話を聞いたところ，インスタグラムのサブアカウントで相互フォローになっている友人の数であることが分かった．

「仲の良い友人たちとの交流頻度」を尋ねる質問では，「ほぼ毎日」と答えた学生は24名（27.3%），「週に3，４回」と答えた学生は18名（19.8%），「週に 1 回」と答えた学生は24名（27.3%），「月に2，３回」と答えた学生は16名（18.2%），「月に1回」と答えた学生は4名（4.5%），「年に数回」と答えた学生は2名（2.3%）であった(図2-5-2)．全体の75%が仲の良い友人と週に 1 回以上交流しており，全体の97.7%が月に 1 回以上交流していることが分かった．

「困った時に頼れる友人の有無」を尋ねる質問では，2名（2.2%）が「いない」，89名（97.8%）が「いる」と回答した．

仲の良い友人の数と困った時に頼れる友人の有無の関連を見てみたところ，２つの間には有意な相関は確認されなかった（F=.438, p=0.510）．また，友人との交流頻度と困った時に頼れる友人の有無の関連を見てみたところ，２つの間に有意な相関は確認されなかった（F=.986, p=0.324）．

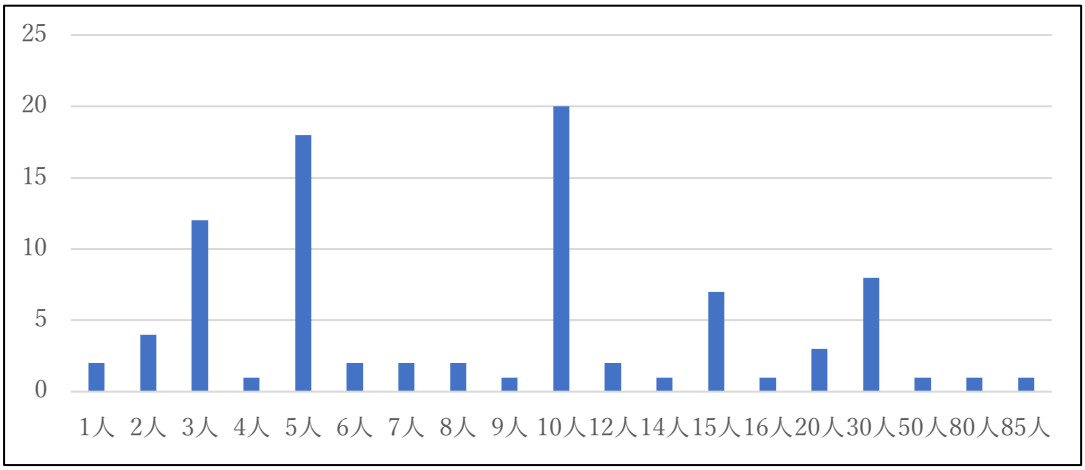


図 2-5-1　仲の良い友人の数

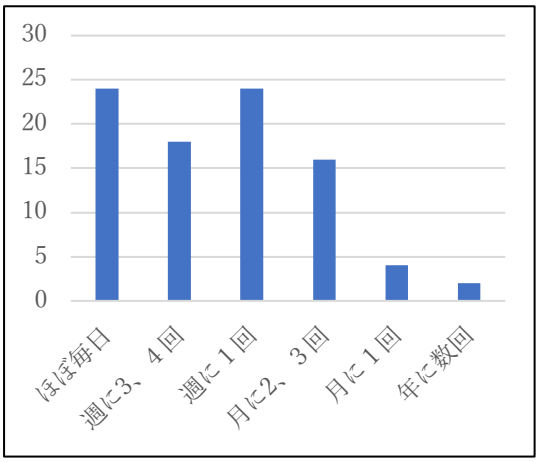


図 2-5-2　友人との交流頻度

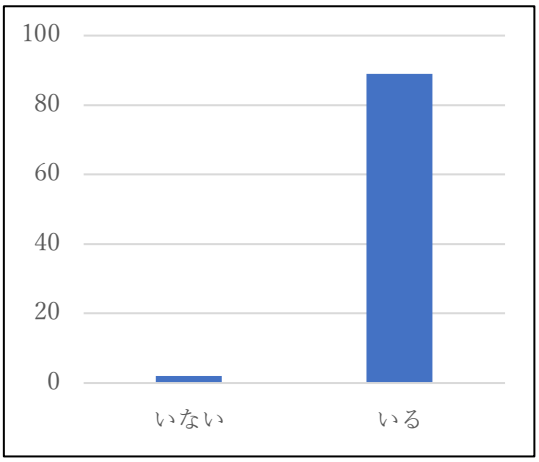


図 2 -5-3　困った時に頼れる友人の有無

⑵-6 交際関係

集計結果の度数分布は図 2-6-1，図 2-6-2 に示した．

「現在の交際相手の有無」を尋ねる質問では，「現在交際相手がいる」と答えた学生は27名（29.7%），「現在交際相手がいない」と答えた学生は57名（62.6%），「回答しない」を選択した学生は7名（7.7%）であった．

また「交際経験の有無」を尋ねる質問では，「交際経験あり」と答えた学生は71名（78%），「交際経験なし」と答えた学生は19名（20.9%），「回答しない」を選択した学生は1名（1.1%）であった．

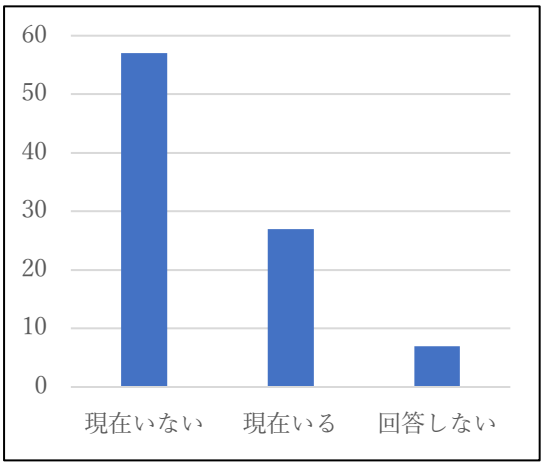


図 2-6-1　現在の恋人の有無

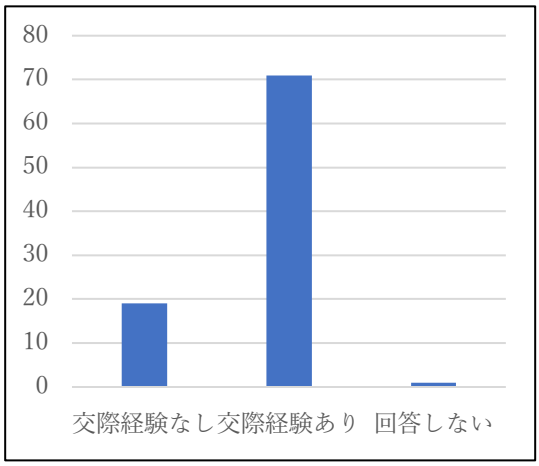


図 2-6-2　交際経験の有無

⑵-7 家族関係

集計結果の度数分布は図 2-7-1，図 2-7-2 に示した．

「家族と過ごす際心地よさを感じますか」という質問に対して，「当てはまらない」と答えた学生は1名（1.1%），「あまり当てはまらない」と答えた学生は7名（7.7%），「どちらとも言えない」と答えた学生は9名（9.9%），「やや当てはまる」と答えた学生は26名（28.6%），「当てはまる」と答えた学生は48名（52.7%）であり，81.3%の学生は家族と良好な関係を築けていることが分かった．

「困った時に頼れる家族・親族」の有無を尋ねる質問では，3名（3.3%）が「いない」，88名（96.7%）が「いる」と回答した．

また困った時に頼れる友人の有無と困った時に頼れる家族・親族の有無の関連を見たところ，２つの間に有意な相関は確認されなかった（F=.068, p =.795）．

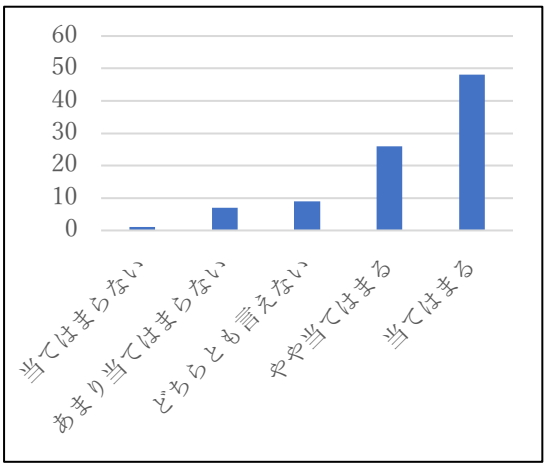


図 2-7-1　家族と過ごす際心地よさを感じるか

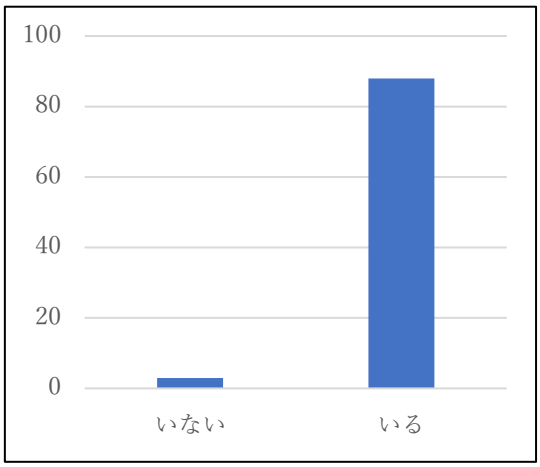


図 2-7-2　頼れる家族・親族の有無

⑵-8 部活・サークル

対象者91人のうち，現在部活・サークルに所属している学生は43名（47.3%），現在は所属していないが以前所属していた学生は26名（28.6%），所属したことがない学生は

22名（24.2%）であった(図2-8).

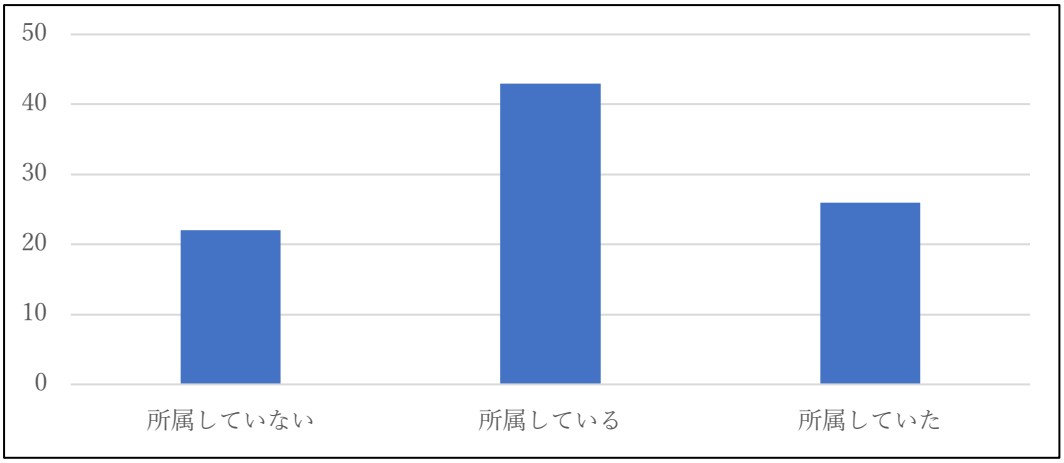


図2-8　部活・サークルの所属

⑵-9 政治・行政

集計結果の度数分布は図 2-9-1，図 2-9-2 に示した.

「選挙参加の程度」を尋ねる質問では，「全く参加したことがない」と答えた学生が25名（27.5%），「参加したことがある」と答えた学生が26名（28.6%），「ほとんど参加している」と答えた学生が21名（23.1%），「選挙権を得てからは毎回参加している」と答えた学生は19名（20.9%）であった.

「一般市民の声は日本の行政や司法に十分に反映されていると思いますか」という質問に対しては,「そう思わない」と答えた学生が9名（9.9%),「あまりそう思わない」と答えた学生が34名（37.4%),「どちらとも言えない」と答えた学生が30名（33%),「ややそう思う」と答えた学生が17名（18.7%),「そう思う」と答えた学生が1名（1.1%）であった．選挙参加度合いと行政や司法における一般市民意見の反映感の相関を見たところ，２つの間に有意な相関は見られなかった（F=1.171, p =0.329）.

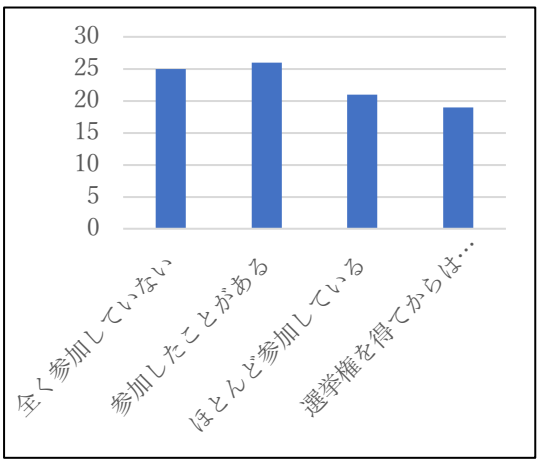


図 2-9-1　選挙参加の程度

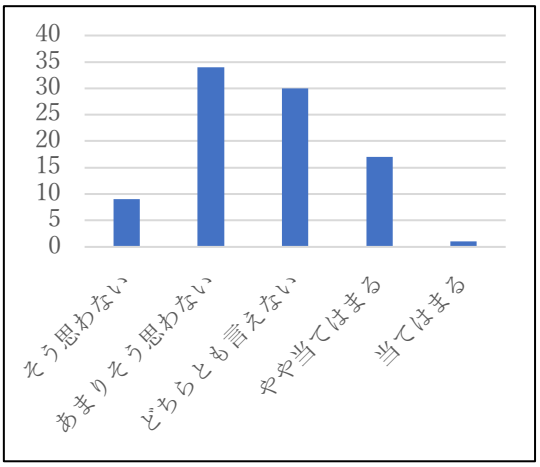


図 2-9-2 行政･司法における民意の反映感

⑵-10 将来不安

「将来不安の度合い」を「かなり不安」を１「全く不安ではない」を５とした５件法で尋ねた結果，平均値は2.4，中央値，最頻値はともに2，標準偏差は1.201，分散は1.442であった．分布をみると，「かなり不安」と回答した学生が24名（26.4%），「やや不安」と回答した学生が33名(36.3%),「どちらとも言えない」と回答した学生が12名(13.2%),「あまり不安ではない」と回答した学生が18名（19.8%），「全く不安ではない」と回答した学生が4名（4.4%）であった(図2-10)．「かなり不安」「やや不安」と答えた学生が全体の62.6%を占めており，半数以上の学生達が将来を不安視していることが分かった．

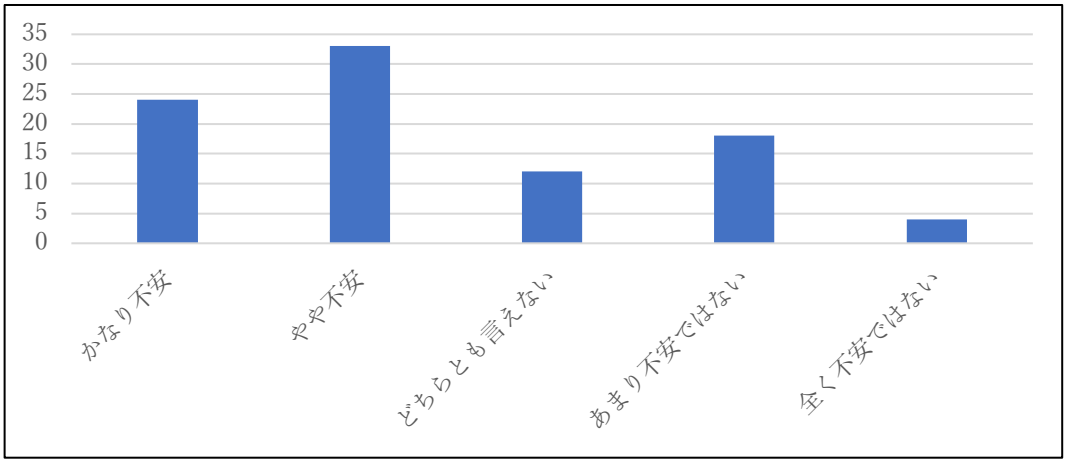


図 2-10　将来不安の程度

⑵-11 期待水準

「将来社会的に高い地位につきたいか」を「そう思わない」を１「そう思う」を５とした５件法で尋ねた結果，平均値は3.42，中央値，最頻値はともに4，標準偏差は1.274，分散は1.624であった．分布をみると，「そう思わない」と回答した学生は6名（6.6%），「あまりそう思わない」と回答した学生は21名（23.1%），「どちらとも言えない」と回答した学生は16名（17.6%），「ややそう思う」と回答した学生は25名（27.5%），「そう思う」と回答した学生は23名（25.3%）であった(図2-11)．

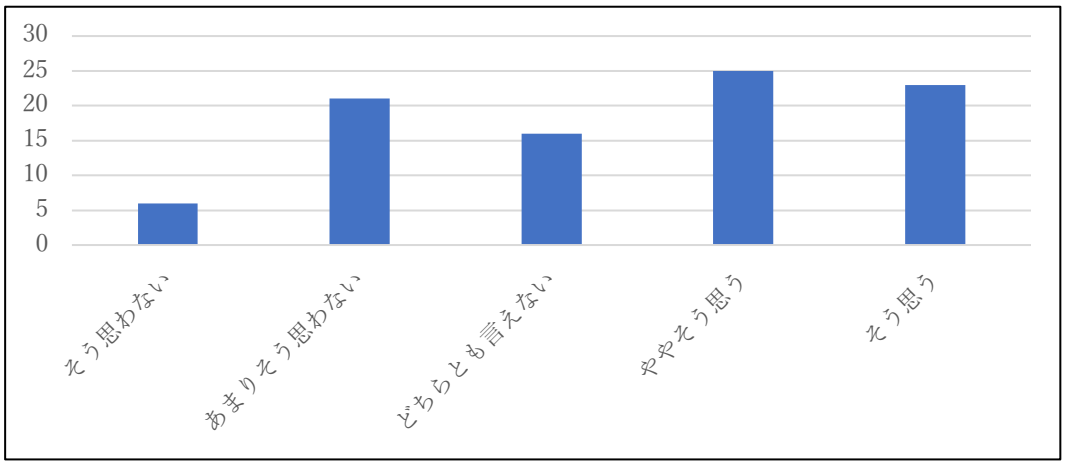


図 2-11　期待水準の程度

⑵-12 自己決定感

「あなたは自身の人生を自由に選択できていると思いますか」という質問を「そう思わない」を１「そう思う」を５とした５件法で尋ねた結果，平均値は4.56，中央値，最頻値はともに5，標準偏差は0.703，分散は0.494であった．分布を見てみると「そう思わない」と回答した学生は0名（0%），「あまりそう思わない」と回答した学生は3名（3.3%），「どちらとも言えない」と回答した学生は2名（2.2%），「ややそう思う」と回答した学生は27名（29.7%），「そう思う」と回答した学生は59名（64.8%），であった(図2-12)．ほとんどの学生が自身の人生において十分に自己決定ができていると感じていることが分かった．

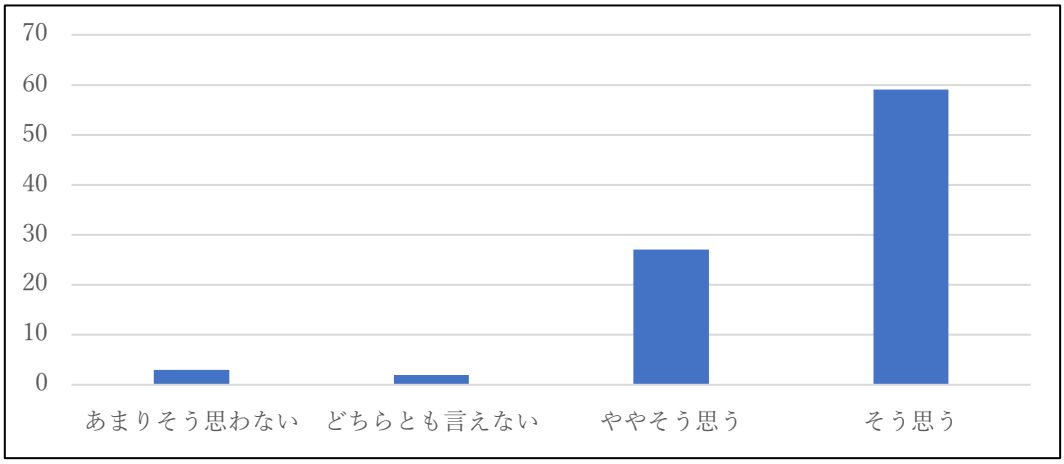


図 2-12　自己決定感の度合い

⑵-13 自己価値向上志向

「あなたは普段，学習や技術の向上といった自己価値の向上に取り組んでいますか」という質問を「そう思わない」と１「そう思う」を５とした５件法で尋ねた結果，平均値は3.71，中央値，最頻値はともに４，標準偏差は1.143，分散は1.307であった．分布をみると「そう思わない」と回答した学生は2名（2.2%），「あまりそう思わない」と回答した学生は18名（19.8%），「どちらとも言えない」と答えた学生は12名（13.2%），「ややそう思う」と答えた学生は31名（34.1%），「そう思う」と答えた学生は28名（30.8%）であった(図2-13)．

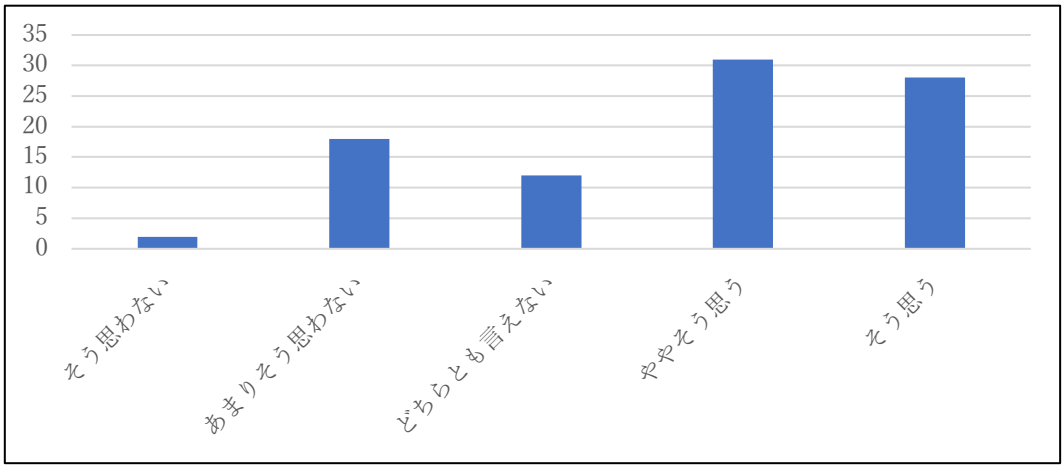


図 2-13　自己価値向上志向

⑵-14 くつろぎ感情充足

「くつろぎを十分に感じているか」を「そう思わない」を 1「そう思う」を 5 とした 5 件法で尋ねた結果，平均値は3.88，中央値，最頻値はともに4，標準偏差は1.143，分散は1.307であった．分布を見てみると，「そう思わない」と回答した学生は4名（4.4%），「あまりそう思わない」と回答した学生は13名（19.8%），「どちらとも言えない」と回答した学生は12名（13.2%），「ややそう思う」と回答した学生は31名（34.1%），「そう思う」と回答した学生は28名（30.8%）であった(図2-14).

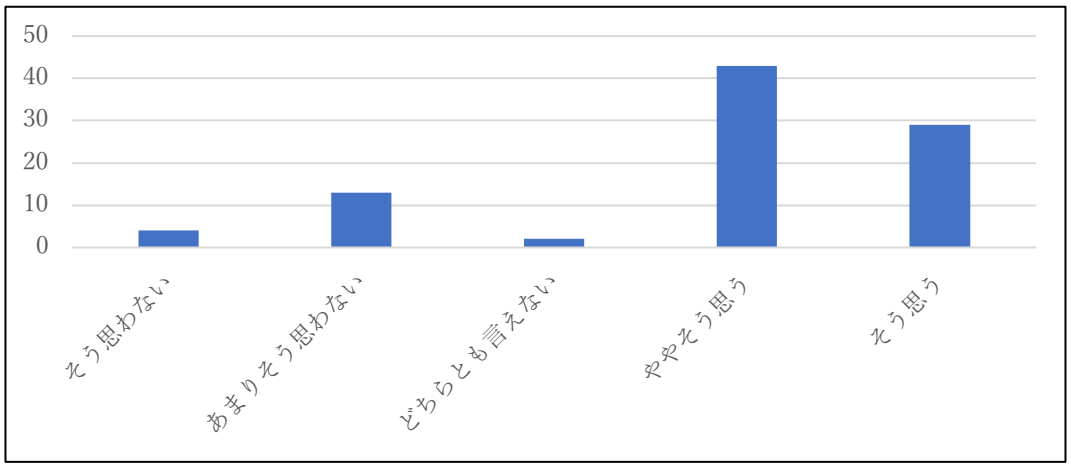


図 2-14　くつろぎ感情の充足

⑵-15 喜び感情充足

「喜びを十分に感じているか」を「そう思わない」を 1「そう思う」を 5 とした 5 件法で尋ねた結果，平均値は4.43，中央値，最頻値はともに5，標準偏差は0.845，分散は0.714であった．分布を見てみると，「そう思わない」と回答した学生は0名（0%），「あまりそう思わない」と回答した学生は6名（6.6%），「どちらとも言えない」と回答した学生は3名（3.3%），「ややそう思う」と回答した学生は28名（30.8%），「そう思う」と回答した学生は54名（59.3%）であった(図2-15).

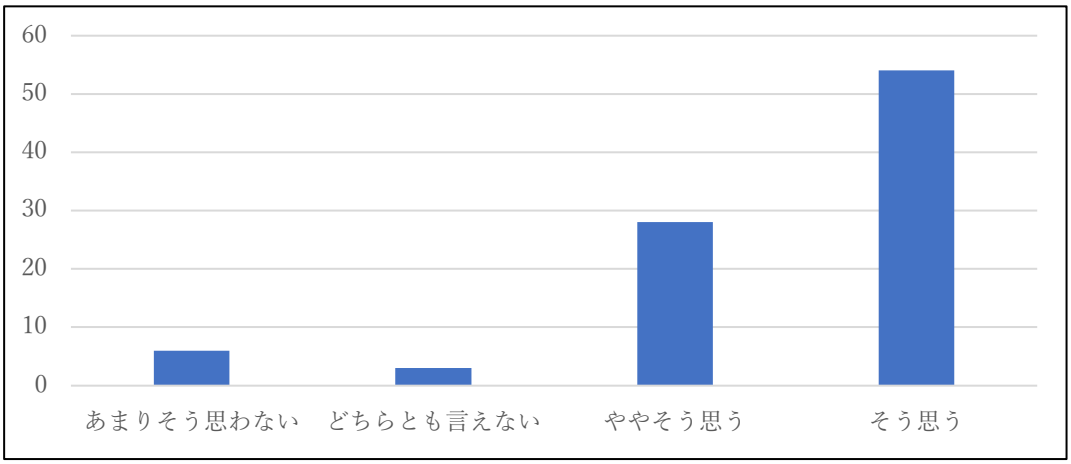


図 2-15　喜び感情充足

3.3　生活満足度とその規定要因の関連分析

(1) 生活満足度

まず，「主観的生活満足度」と「人生満足度」「協調的幸福感」の関係性を見ていく．「主観的生活満足度」と「人生満足度」「協調的幸福感」について相関分析を行い，その結果を以下の表3-1に示した．

その結果「主観的生活満足度」と「人生満足度」の間には有意な正の相関があること（r=0.653, p<0.001），また「主観的生活満足度」と「協調的幸福感」の間にも有意な正の相関があること（r=0.650, p<0.001）が確認された(図3-1-1，図3-1-2)．これらのことから，人生満足度と協調的幸福感はほとんど同程度「主観的生活満足度」に関連していることが分かった．

表 3-1　主観的生活満足度と人生満足度・協調的幸福感の関係

		人生満足度	協調的幸福感
主観的生活満足度	相関係数	0.653	0.650
	有意確率	<.001	<.001

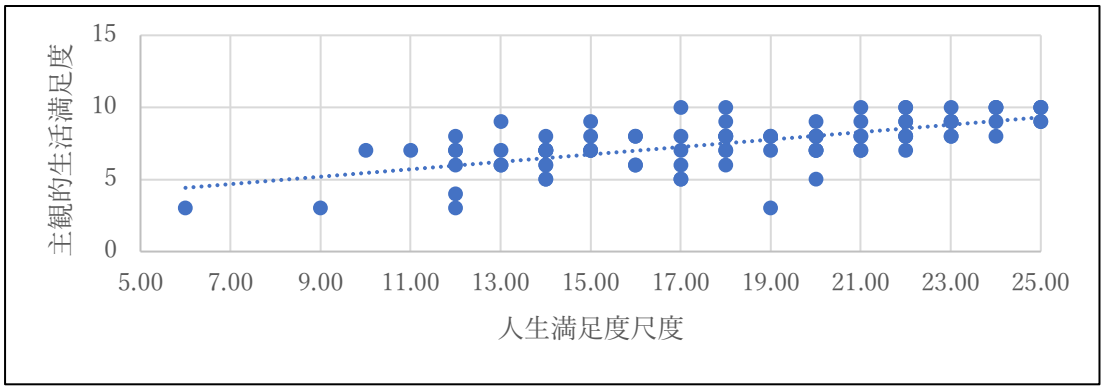


図3-1-1　主観的生活満足度と人生満足度の相関の散布図

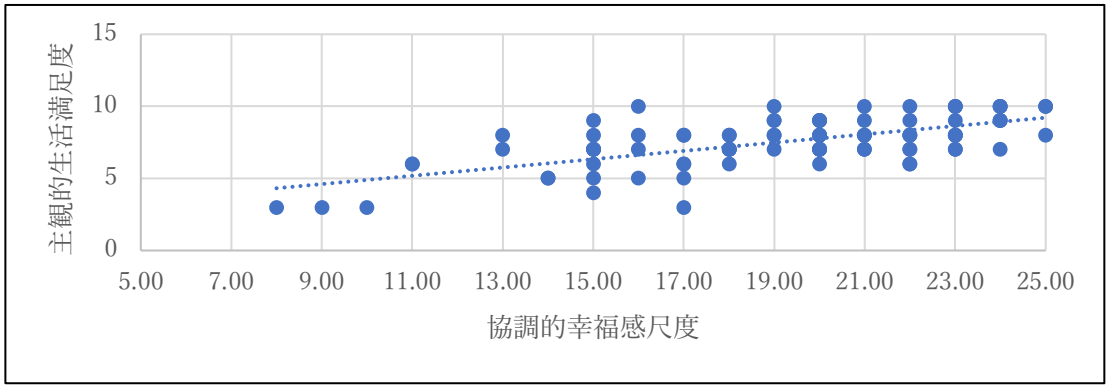


図3-1-2　主観的生活満足度と協調的幸福感の相関の散布図

次に，被説明変数となる生活満足度と各説明要因との関係性を見ていく．「主観的生活満足度」を従属変数，各説明要因を独立変数と設定し，相関分析を行なった．分析結果は以下の通りである．

⑵ 各説明要因と生活満足度

⑵-1 経済的余裕と生活満足度

経済的余裕と生活満足度の分析結果は以下表3-2-1の通りである．

生活満足度と「金銭席な余裕」「自由に使えるお金の金額」について相関分析を行なった．その結果，主観的生活満足度と「金銭的な余裕」の間には有意な正の相関が（r＝0.455, p <0.001）見られた(図3-2-1⑴)．また主観的生活満足度と「自由に使えるお金の金額」の間にも弱くはあるものの有意な正の相関（r＝0.363, p<0.001）が見られ(図3-2-1⑵)，自由に使えるお金の多寡それ自体で満足度に有意な差が見られなかった岩田（2015）の調査結果と異なる結果になった．

これらのことから，経済的なゆとりあるほど，生活満足度が高いことが分かった．

表 3-2-1　主観的生活満足度と経済的余裕の関係

		金銭的な余裕	自由に使えるお金の金額
主観的生活満足度	相関係数	0.455	0.363
	有意確率	<.001	<.001

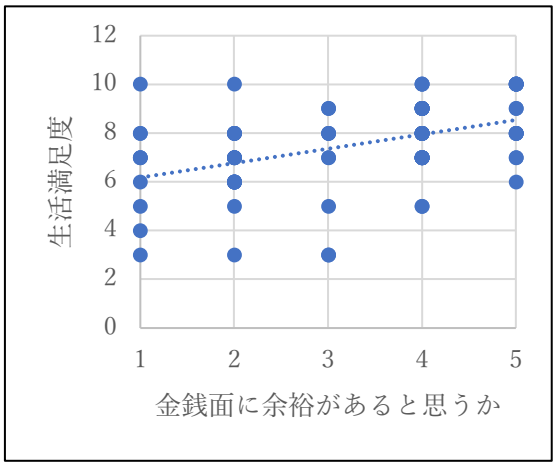


図 3-2-1(1)　生活満足度と金銭的余裕

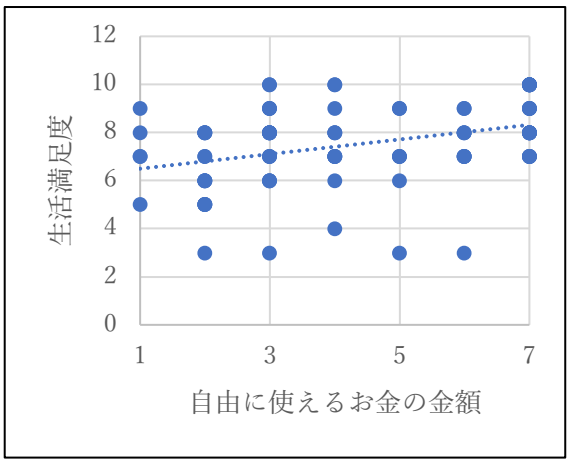


図 3-2-1(2)　生活満足度と自由に使えるお金

(2)-2 アルバイトと生活満足度

アルバイトと生活満足度における分析結果は以下表3-2-2の通りである．

アルバイトの有無別に生活満足度の平均値を比較したところ，「現在アルバイトを行なっている」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.59，「現在は行なっていないが以前アルバイトを行なっていた」と回答した学生の平均値は7.00，「アルバイトを行なったことがない」と回答した学生の平均値は8.00であった．記述統計ではアルバイトをしたことがない学生が最も生活満足度が高く，次に現在アルバイトをしている学生が続き，以前アルバイトをしていたが現在はしていない学生が最も生活満足度が低いという結果が見られた(図3-2-2(1))．しかし，Welch検定による平均値の比較の結果，による生活満足度に有意な差は見られなかった（$F(2, 2.641)=0.681$, $p=0.578$）．

また「アルバイト先の業務内容に対するやりがいや楽しさ」「アルバイト先の人間関係の良好度」と生活満足度について相関分析を行なった．その結果は以下の図3-2-2(2)，図3-2-2(3)の通りである．主観的満足度と「業務内容に対するやりがいや楽しさ」の間には有意な相関は確認されなかった（$r=0.162$, $p=0.153$）が，主観的満足度と「アルバイト先の人間関係」の間には有意な正の相関が見られた（$r=0.371$, $p<0.001$）．

表3-2-2　主観的生活満足度とアルバイトの関係

		業務内容に対するやりがいや楽しさ	アルバイト先の人間関係
主観的生活満足度	相関係数	0.162	0.371
	有意確率	0.153	<.001

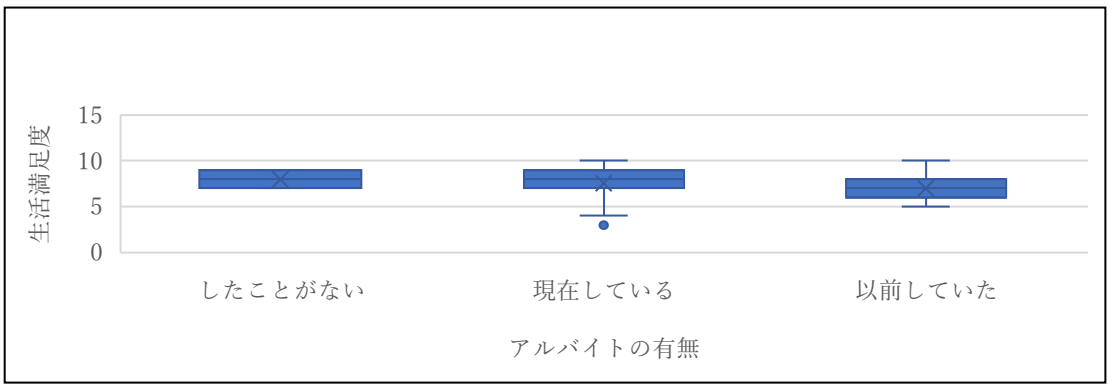


図3-2-2(1)　生活満足度とアルバイトの有無

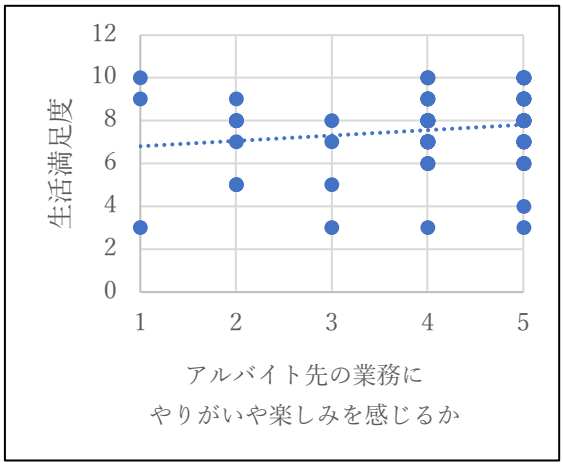


図 3-2-2(2)
生活満足度とアルバイト先の業務

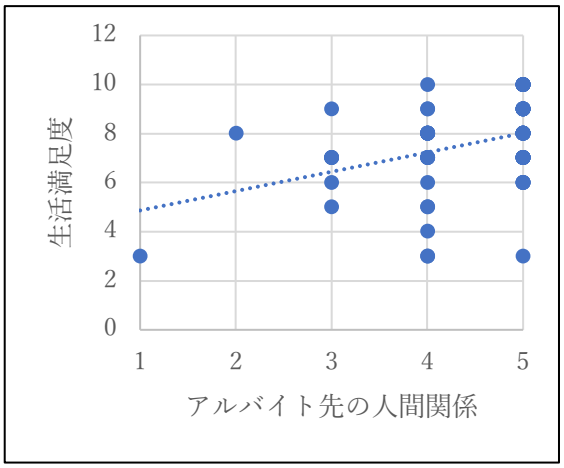


図 3-2-2(3)
生活満足度とアルバイト先の人間関係

(2)-3 所属大学と生活満足度

所属大学と生活満足度における分析結果は以下表3-2-3，図3-2-3(1)，図3-2-3(2)に示した通りである．

「所属大学の社会的評価」と生活満足度について相関分析を行なった結果，生活満足度と「所属大学の社会的評価」の間に有意な相関は確認されなかった（$r=0.152$, $p=0.15$）．

また，所属大学の志望度別に生活満足度の平均値を比較したところ，「第一志望」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.52，「第一志望ではない」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.55と，所属大学の志望度によって生活満足度に大きな差はないという結果が見られた．また，Welch検定による平均値の比較の結果，所属大学の志望度合いによる生活満足度に有意な差は見られなかった（$F(1, 71.266)=0.006$, $p=0.939$）．

表3-2-3　所属大学と生活満足度の関係

		所属大学の社会的評価
主観的生活満足度	相関係数	0.152
	有意確率	0.15

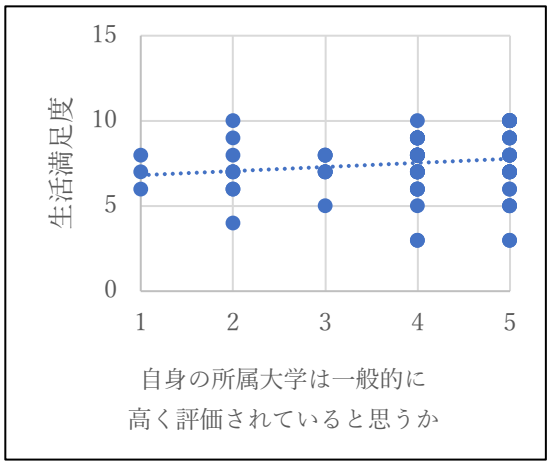


図 3-2-3(1)
生活満足度と所属大学の社会的評価

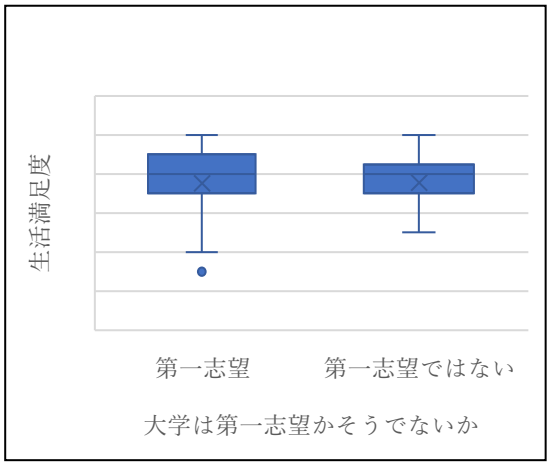


図 3-2-3(2)
生活満足度と所属大学の志望度

(2)-4 学業の充実と生活満足度

学業の充実と生活満足度における分析結果は，以下表3-2-4，図3-2-4(1)，図3-2-4(2)で示した通りである．

「学業の楽しさ」「学習意欲」と生活満足度について相関分析を行なった．その結果，「学業の楽しさ」と生活満足度との間に有意な相関は確認されず（r＝0.16，p =0.13），「学習意欲」と生活満足度との間にも有意な相関は確認されなかった（r＝0.182，p =0.085）．

表3-2-4　生活満足度と学業充足度の関係

		学業の楽しさ	学習意欲
主観的生活満足度	相関係数	0.16	0.182
	有意確率	0.13	0.085

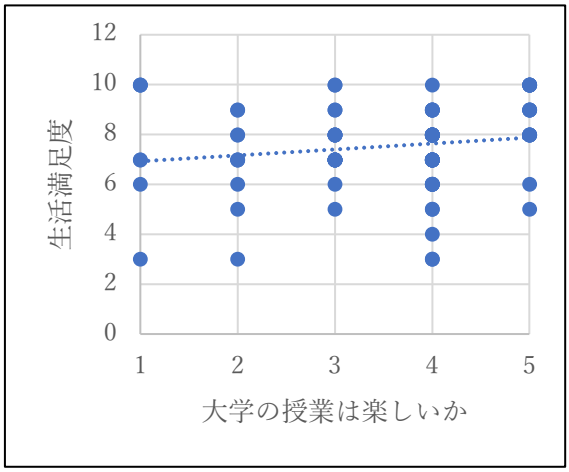


図 3-2-4(1)　生活満足度と学業の楽しさ

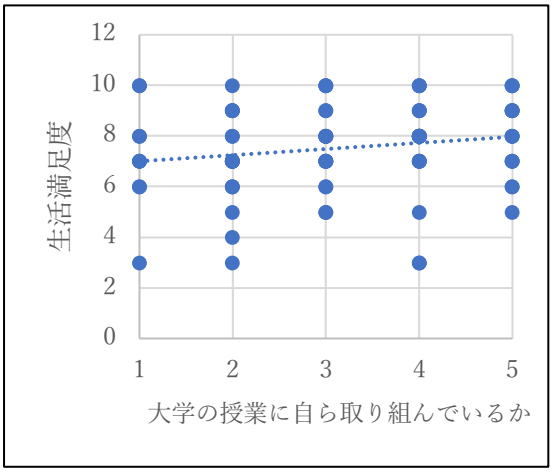


図 3-2-4(2)　生活満足度と学習意欲

⑵-5 友人関係と生活満足度

友人関係と生活満足度における分析結果は以下表3-2-5，図3-2-5⑴，図3-2-5⑵，図3-2-5⑶で示した通りである．

「仲の良い友人の数」「友人との交流頻度」と生活満足度について相関分析を行なった．その結果，仲の良い友人の数と生活満足度の間には有意な正の相関は見られず（r＝0.17，p=0.116），友人との交流頻度と生活満足度との間にも有意な相関は見られなかった（r＝-0.129，p=0.23）．

また，困った時に頼れる友人の有無別に生活満足度の平均値を比較したところ，「頼れる友人がいる」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.54，「頼れる友人がいない」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.00であり，頼れる友人がいる方が生活満足度が高いという結果が見られた．頼れる友人がいないと答えたグループの分散が 0 であったためWelch検定による平均値の比較はできなかった．

表3-2-5　生活満足度と友人関係の関係

		仲の良い友人の数	友人との交流頻度
主観的生活満足度	相関係数	0.17	-0.129
	有意確率	0.116	0.23

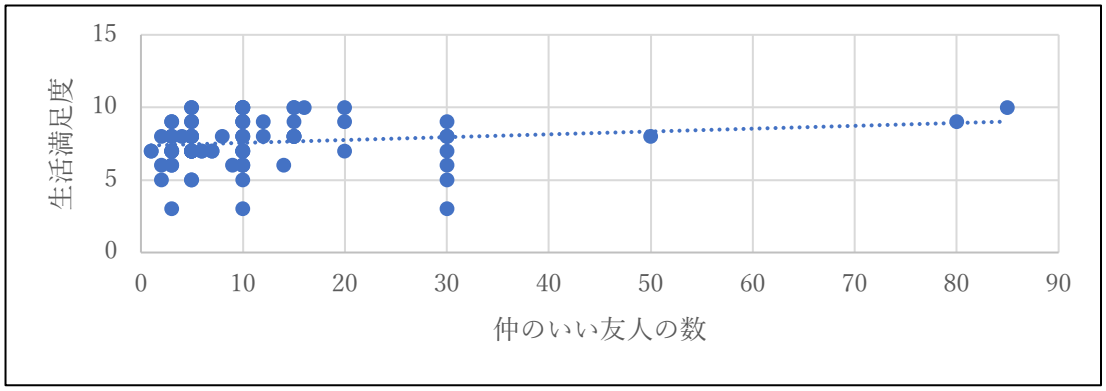
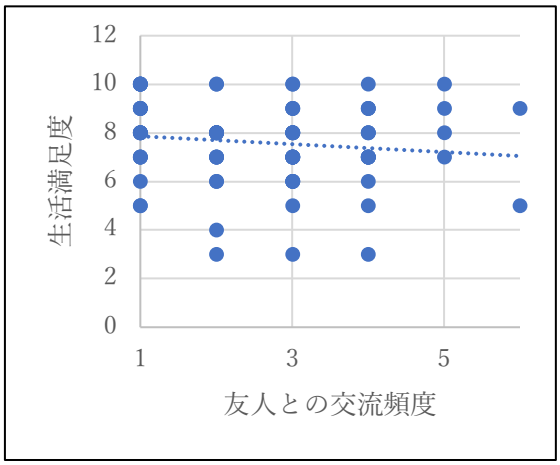


図3-2-5⑴ 生活満足度と仲の良い友人の数



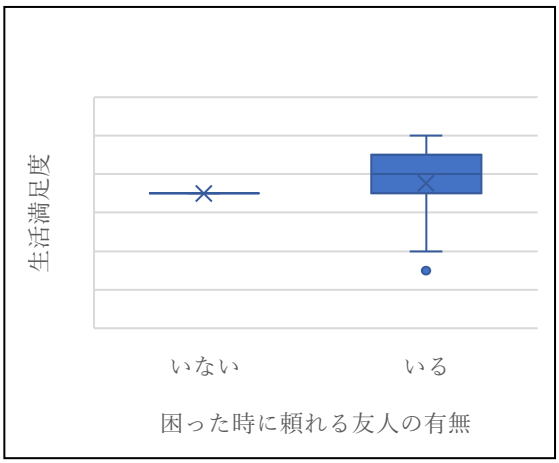


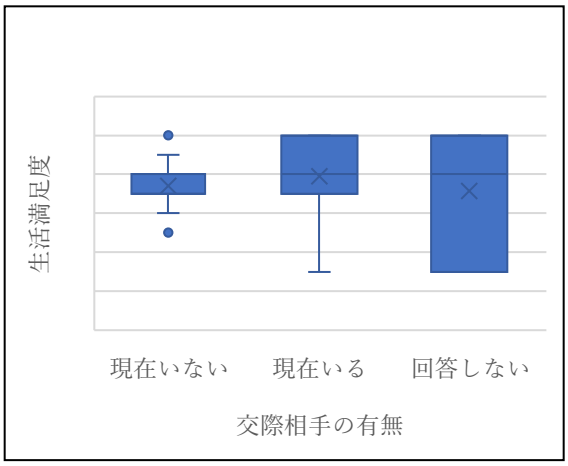
図 3-2-5(2)　生活満足度と友人との交流頻度　図 3-2-5(3)　生活満足度と頼れる友人の有無

(2)-6 交際関係と生活満足度

交際関係と生活満足度における分析結果は以下図3-2-6(1), 図3-2-6(2)で示した通りである.

交際相手の有無別に生活満足度の平均値を比較したところ,「現在交際相手がいる」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.89,「現在交際相手がいない」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.40,「回答しない」を選択した学生の生活満足度の平均値は7.14であり,記述統計では「交際相手がいる」方が生活満足度が高いという結果が見られた.しかし,Welch検定による平均値の比較の結果,交際相手の有無による生活満足度に有意な差は見られなかった（$F(2, 14.196)=0.662$, $p=0.531$）.

交際経験の有無別に生活満足度の平均値を比較したところ,「交際経験がある」と答えた学生の生活満足度の平均値は7.62,「交際経験がない」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.21,「回答しない」を選択した学生の生活満足度の値は7.00であり,記述統計では「交際経験がある」方が生活満足度が高いという結果が見られた.「回答しない」グループの分散が 0 であったためWelch検定による平均値の比較はできなかった.



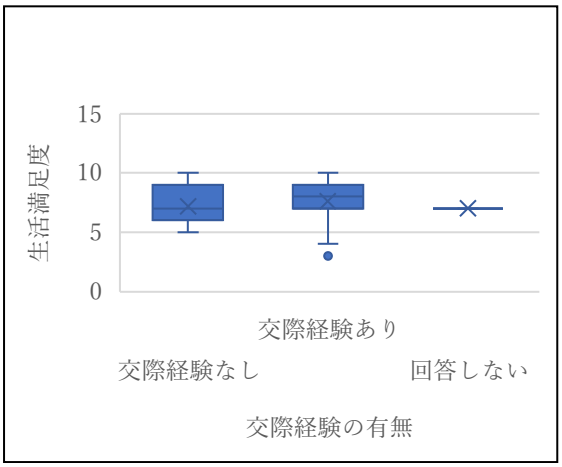


図 3-2-6(1)　生活満足度と交際相手の有無　図 3-2-6(2)　生活満足度と交際経験の有無

⑵-7 家族関係と生活満足度

家族関係と生活満足度における分析結果は以下表3-2-7，図3-2-7⑴，図3-2-7⑵で示した通りである．

「家族関係の良好度合い」と生活満足度について相関分析を行なった．その結果，「家族関係の良好度合い」と生活満足度との間に有意な正の相関が見られた（r＝0.410，p <0.001）．

また，困った時に頼れる家族・親族の有無別に生活満足度の平均値を比較したところ，「頼れる家族・親族がいる」と回答した学生の生活満足度の平均値は7.60，「頼れる家族・親族がいない」と回答した学生の生活満足度の平均値は5.33であり，記述統計では，頼れる家族・親族がいる方が生活満足度が高いという結果が見られた．しかし，Welch検定による平均値の比較の結果，による生活満足度に有意な差は見られなかった（F(1，2.087)＝，p =0.197）．

表3-2-7　生活満足度と家族関係の関係

		家族関係の良好度合い
主観的生活満足度	相関係数	0.410
	有意確率	<.001

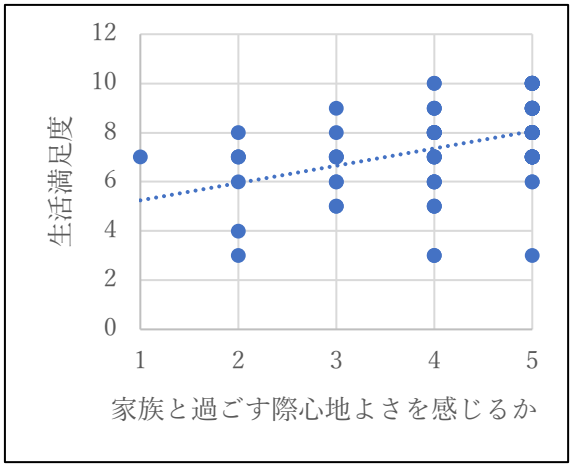


図 3-2-7⑴　生活満足度と家族関係

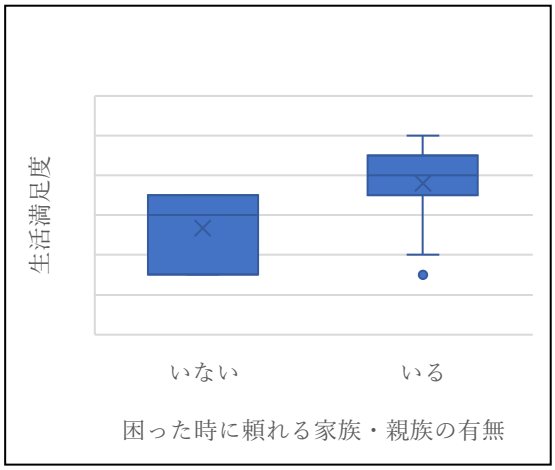


図 3-2-7⑵　生活満足度と頼れる家族・親戚の有無

⑵-8 部活・サークルと生活満足度

部活・サークルと生活満足度における分析結果は以下図3-2-8⑴，図3-2-8⑵，図3-2-8⑶で示した通りである．

部活・サークルの所属有無と生活満足度について平均値の比較を行なった．現在部活・サークルに所属している学生の生活満足度の平均値は7.70，現在は所属していないが以前所属していた学生の生活満足度の平均値は7.31，部活・サークルに所属していない学

生の生活満足度の平均値は7.45であり，記述統計では部活・サークルに所属している学生の方が生活満足度が高いという結果が見られた．しかし，Welch検定による平均値の比較の結果，による生活満足度に有意な差は見られなかった（F(2, 51.586)＝0.493, p =0.614）．

また，「部活・サークルの活動内容に対するやりがいや楽しさ」「部活・サークルの人間関係の良好度合い」と生活満足度について相関分析を行なった．その結果，「活動内容に対するやりがいや楽しさ」と生活満足度の間に有意な相関は見られず（r＝0.074, p =0.541），「部活・サークルの人間関係の良好度合い」と生活満足度の間にも有意な相関は見られなかった（r＝-0.025, p =0.838）．

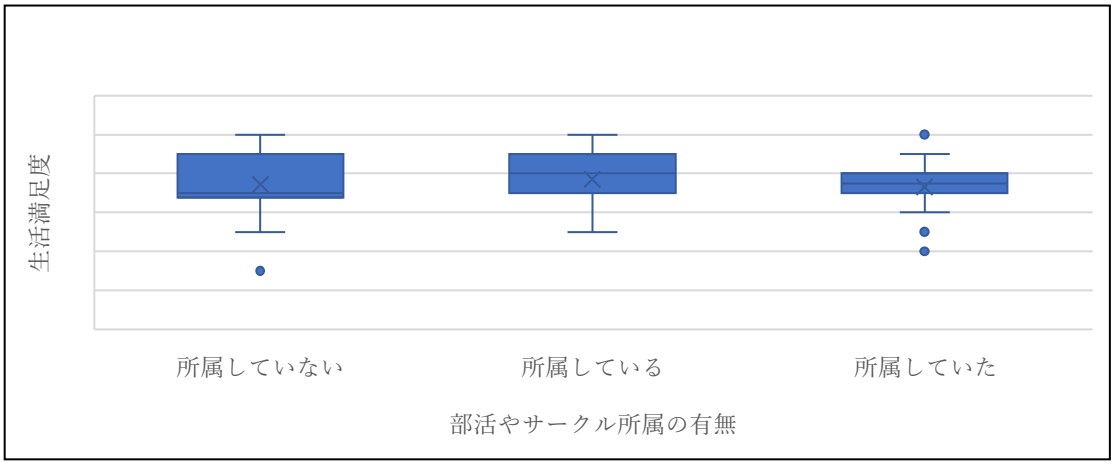


図 3-2-8(1)　生活満足度と部活やサークルの所属

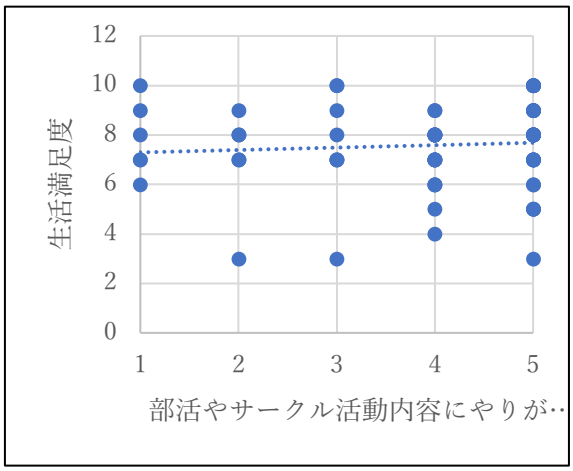


図 3-2-8(2)　生活満足度と部活やサークルの活動内容に対するやりがいや楽しさの有無

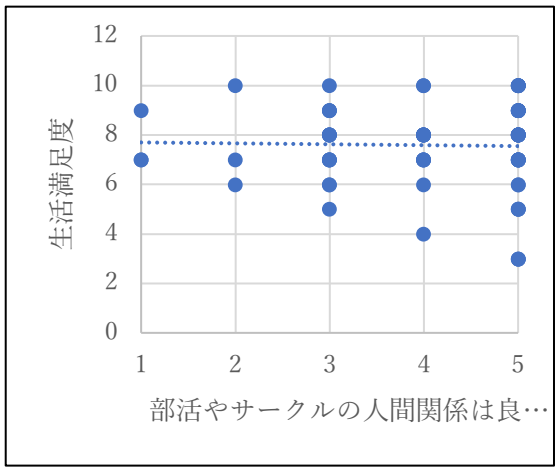


図 3-2-8(3)
生活満足度と部活やサークルの人間関係

(2)-9 政治・行政と生活満足度

政治・行政と生活満足度における分析結果は以下表3-2-9，図3-2-9(1)，図3-2-9(2)で示し

た通りである．

「選挙参加の度合い」「行政や司法における一般市民意見の反映感」と生活満足度について相関分析を行なった．その結果，「選挙参加の度合い」と生活満足度の間に有意な相関は見られず（r＝0.36, p =0.735），「行政や司法における一般市民意見の反映感」と生活満足度の間にも有意な相関は見られなかった（r＝0.86, p =0.415）．

表3-2-9　生活満足度と政治・行政の関係

		選挙参加の度合い	民意の反映感
主観的生活満足度	相関係数	0.36	0.86
	有意確率	0.735	0.415

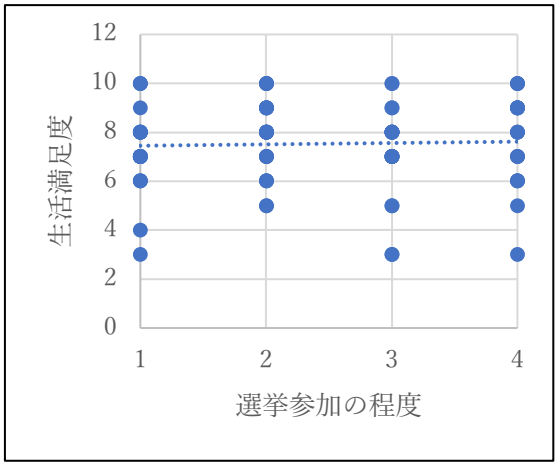


図 3-2-9(1)
生活満足度と選挙参加の度合い

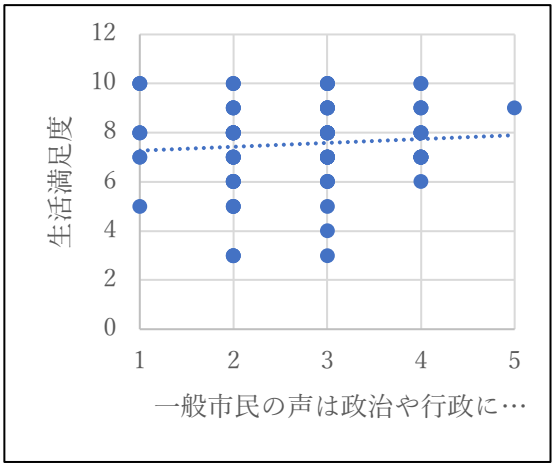


図 3-2-9(2)
生活満足度と政治おける民意の反映感

⑵-10 将来不安

将来不安と生活満足度における分析結果は以下表3-2-10, 図3-2-10で示した通りである．

将来不安度合いと生活満足度について相関分析を行なった.その結果、生活満足度と将来不安度合いに有意な正の相関が見られた（r＝0.430, p <0.001）．

表3-2-10　生活満足度と将来不安の関係

		将来不安
主観的生活満足度	相関係数	0.430
	有意確率	<0.001

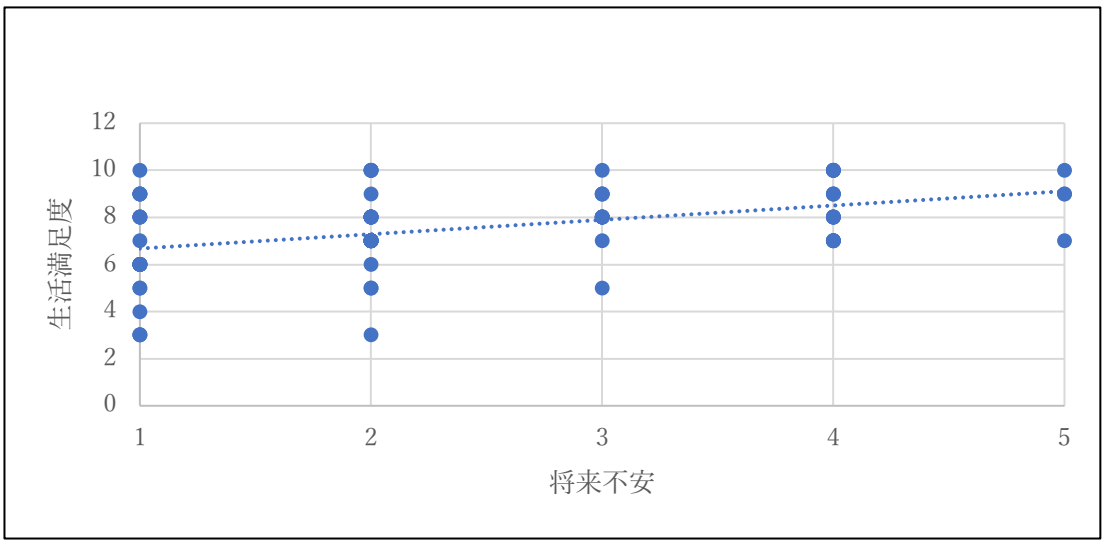


図3-2-10　将来不安

⑵-11 期待水準

期待水準と生活満足度における分析結果は以下表 3-2-11，図 3-2-11 で示した通りである．

期待水準と生活満足度について相関分析を行なった.その結果、生活満足度と期待水準に有意な相関は見られなかった（r＝0.112, p =0.288）．

表 3-2-11　期待水準と生活満足度の関係

		期待水準
生活満足度	相関係数	0.112
	有意確率	0.288

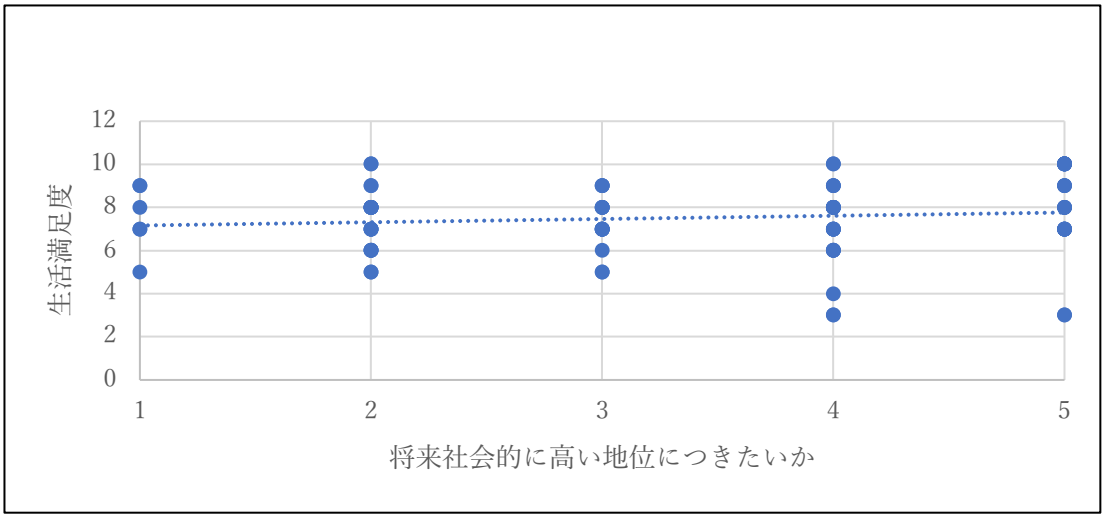


図3-2-11　生活満足度と期待水準

⑵-12 自己決定感

自己決定感と生活満足度における分析結果は以下表3-2-12，図3-2-12の通りである．

自己決定感の高さと生活満足度について相関分析を行なった．その結果、生活満足度と自己決定感の間に有意な相関は見られなかった（r＝0.196, p =0.063）．

表3-2-12　自己決定感と生活満足度の関係

		自己決定感
生活満足度	相関関係	0.196
	有意確率	0.063

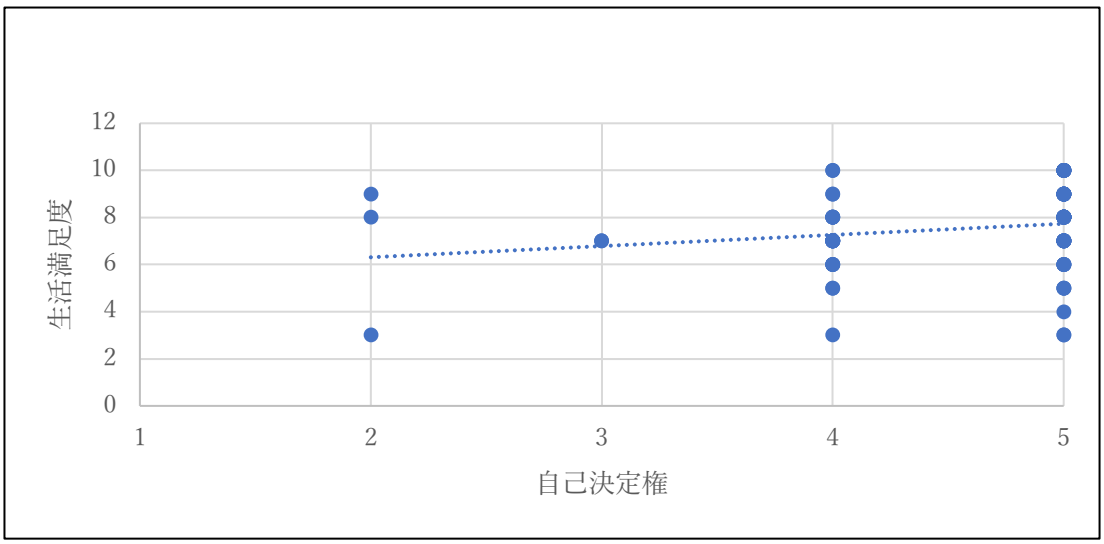


図3-2-12　生活満足度と自己決定感

⑵-13 自己価値の向上

幸福（自己価値の向上）と生活満足度における分析結果は以下表3-2-13，図3-2-13の通りである．

自己価値の向上への取り組み度合いと生活満足度について相関分析を行なった．その結果、生活満足度と自己価値の向上への取り組みとの間に有意な相関が見られなかった（r＝0.194, p ＝0.065）．

表3-2-13　生活満足度と自己価値向上志向の関係

		自己価値の向上志向
生活満足度	相関係数	0.194
	有意確率	0.065

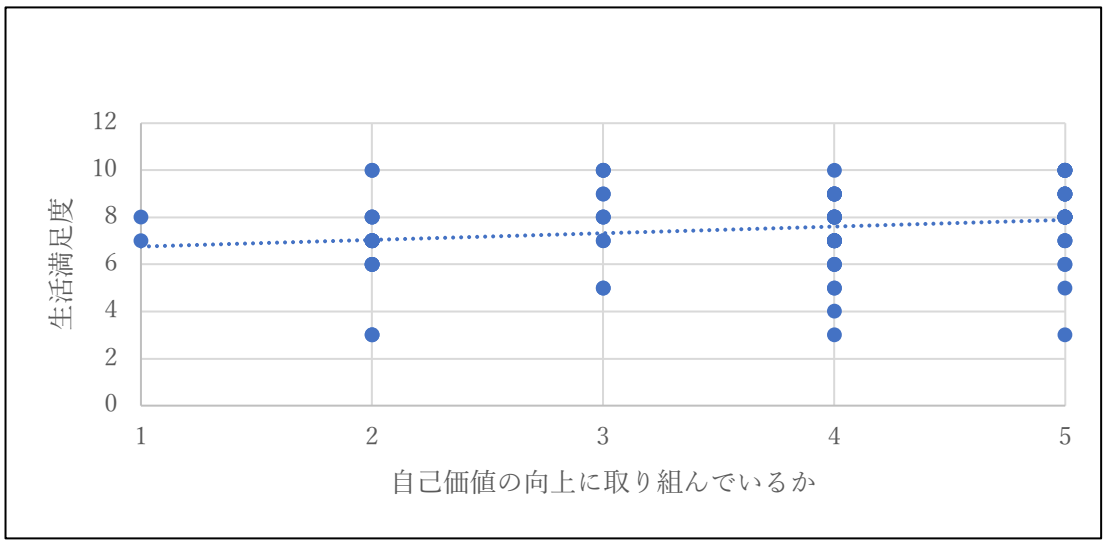


図3-2-13 生活満足度と自己価値向上志向

⑵-14 くつろぎ感情充足

くつろぎ感情の充足度と生活満足度における分析結果は以下表3-2-14, 図3-2-14の通りである.

くつろぎ感情と生活満足度について相関分析を行なった. その結果、生活満足度とくつろぎ感情の間に有意な正の相関が見られた（r＝0.381, p ＜0.001）.

表3-2-14　生活満足度とくつろぎ感情の充足の関係

		くつろぎ感情の充足
生活満足度	相関係数	0.381
	有意確率	<0.001

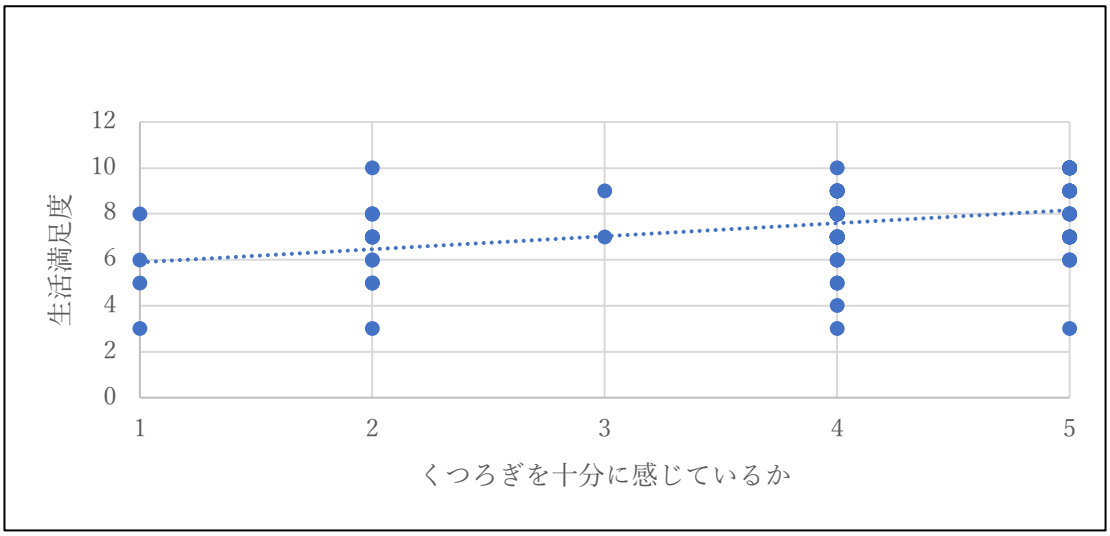


図3-2-14　生活満足度とくつろぎ感情の充足

⑵-15 喜び感情

喜び感情の充足度と生活満足度における分析結果は以下表3-2-15, 図3-2-15の通りである.

喜び感情の充足と生活満足度について相関分析行った. その結果、生活満足度と喜び感情の充足の間に有意な正の相関が見られた（r＝0.475, p <0.001）.

表3-2-15　生活満足度と喜び感情の充足の関係

		喜び感情の充足
生活満足度	相関係数	0.475
	有意確率	<0.001

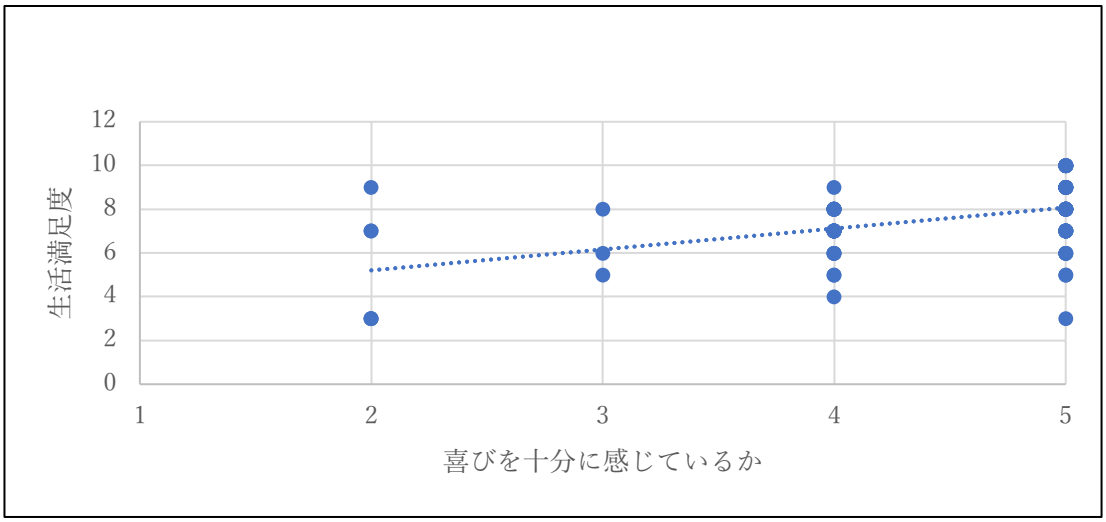


図3-2-15　生活満足度と喜び感情の充足

これらの分析結果から, 「金銭的な余裕」「自由に使えるお金の金額」「アルバイト先の人間関係の良好度合い」「家族関係の良好度合い」「将来不安」「くつろぎ感情の充足度」「喜び感情の充足度」7項目に生活満足度に有意な関係が見られることが分かった（図4）.

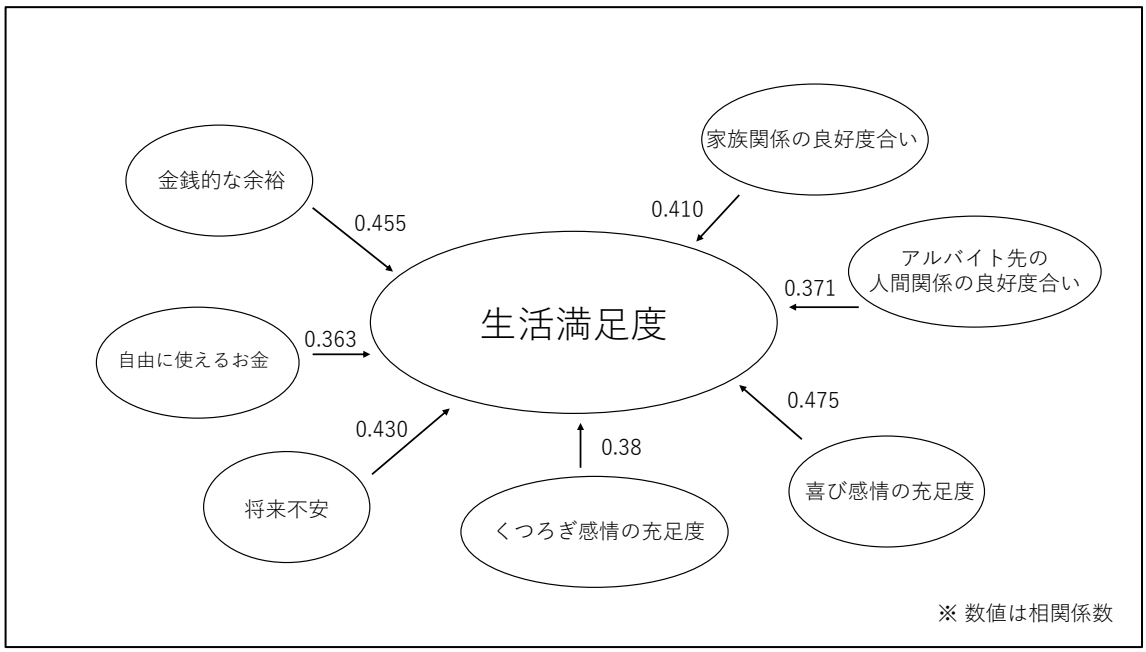


図4　生活満足度と有意な関係が見られた要因達

4　考察

生活満足度の規定要因

本論文の研究の目的は，大学生の生活満足度を規定する要因を明らかにすることであった．本研究の調査では，「経済的余裕」「アルバイト」「所属大学」「学業の充実」「部活やサークル」「友人関係」「恋人関係」「家族関係」「政治・行政」の９分野と「将来不安」「期待水準」「自己決定感」「幸福（自己価値向上)」「くつろぎ感情」「喜び感情」の６項目を生活満足度の説明要因と仮定し，それぞれの項目と生活満足度の関係について分析を行なった．

その結果「経済的な余裕」と「自由に使えるお金」といった経済的要因と「家族関係の良好度合い」「アルバイト先の人間関係の良好度合い」をはじめとした周囲の人々との関係性において有意な正の相関が見られた．このことから，大学生の生活満足度を規定する要因として，経済的要因と周囲の関係性が重要であることが示された．

経済面においては，「金銭的な余裕の有無」と「自由に使えるお金の金額」のどちらの項目でも生活満足度に有意な相関が見られ，経済的な要因が生活満足度に大きな影響を与えるとする，これまでの先行研究と一貫する結果が見られた．したがって，生活満足度を判断する際に多くの人が重視する項目ではないものの，経済的な充足は大学生達にとって重要であることが示された．

学業満足度と生活満足度の間に有意な相関が見られなかったことは，小川・園田（2019）の研究結果とは反すること結果になった．しかし，学年別に比較したところ1年生の学業充足度が最も高い結果が示されたことから，今回の調査では回答者のサンプル数が少なく検討が難しかったが，対象者が1年生であれば，学業満足度と生活満足度において有意な相関が見られるかもしれない．この仮説は，1年生は必修科目が多く，必ずしも自身の興味があ

る内容に関連する授業科目を受講できるわけではないため，学業満足度が得にくいという一般的な通説と反する．しかしその一方で，高校までの授業内容と比較すると大学の学びは自身の興味関心に近いため，入学したばかりの1年生は大学の学習に満足を得やすいとも考えられる．また今回は回答者のサンプル数が少なく比較が難しかったが，所属学部別に見るとまた異なる結果が見られるかもしれない．

周囲の人との良好な関係性が生活満足度に影響を与えていることは，人が社会的な動物であることを表す結果であり，これまでの先行研究の結果とも一致する結果となった．友人関係においては，先行研究はもちろん,「生活満足度を判断する際に重視する項目」として半数以上の人が選択していることからも生活満足度を規定する重要な要因の１つであると考えられる．本研究では友人関係と生活満足度の間に有意な相関は見られなかったが，その原因として友人関係の充足度を測る項目として「仲の良い友人の数」と「交流頻度」といった量的変数を使用したことが考えられる．つながりの強さなどの質的な項目で友人関係を検討した場合，また違った結果が得られる可能性がある．また，家族関係の良好さや恋人の有無といった身近な人たちとの関係性だけでなく，アルバイト先の人間関係といった社会的なつながりも生活満足度に影響を与えることは予想外な結果であった．

「将来不安」の大きさと生活満足度に有意な正の相関が見られたことは，先行研究の結果と一致した．古市(2015)と南(2015)の間で意見が異なっていた「期待水準」においては，生活満足度との間に有意な相関は見られなかった．有意であるかに関わらずとも，相関係数は0.112であり必ずしも相関があるとは言えない結果となった．

幸福への価値観において，生活満足度を判断する際に重視した項目として「精神的なゆとり」が多く選択されており,「くつろぎ感情の充足」と生活満足度の間にも有意な相関関係が見られた．また,「喜び感情の充足」と生活満足度の間にも正の相関関係性が見られた．これらのことから快楽の面において，気楽さややすらぎといった覚醒度の低いポジティブな感情と，楽しさや面白さといった覚醒度の高いポジティブな感情の両方が生活満足度に影響を与えていることが分かった．加えて本研究では，人生満足度と協調的幸福感がほとんど同程度，主観的に満足感と関係しているという結果が見られた．これらのことから，本研究対象者は，穏やかな幸福を重視する日本的な価値観を持ちながらも，喜びや面白さといった覚醒度の高い感情や自己決定を重視する欧米的な価値観を持っていると考えられる．

5　おわりに

最後に本研究で明らかになったことについてまとめ，課題と今後について述べる．本研究では，近年社会的関心が高まっている幸福度・生活満足度に注目し，以前まで幸せや豊かさの指標となっていた経済的指標以外で人々の幸せについて検討した．具体的には，若者特に大学生の生活満足度とその規定要因について，また内田（2020）の日本的な幸せに対する価値観や，古市（2015）や南（2015）の研究によって指摘されてきた若者の幸せに対する価値観について，質問調査と SPSS を用いた分析を通して検討してきた．

その結果，大学生の生活満足度を規定する要因として，経済的要因と周囲の人々との関係

性が重要であることが示され，これまでの先行研究，特に質問項目を作成する際に参考にした岩田（2015）が行なった大学生の生活満足度調査の結果と概ね一致した．また，岩田の調査では検討されなかった，大学生の本分である「学業」の充足度と生活満足度の関連を検討したところ，有意な結果は見られなかった．

また，幸福に対する価値観においては，「精神ゆとり」が生活満足度を判断する際の項目として重視されており，「くつろぎ感情の充足」と生活満足度の間にも有意な関連が見られた．一方，「自己決定感」や「喜び感情の充足」と生活満足度の間にも有意な関連が見られ，現在の大学生は，内田の指摘する日本的な価値観だけでなく，覚醒度が高く自己達成的な欧米的価値観も併せ持っていることが考えられた．

しかしこの研究では，回答者の半数が同志社大学生であること，また回答者の大半を 4 年生が占めていることなど，全国の大学生について検討するには調査対象者に偏りが見られ，この結果をそのまま現在の大学生の実態として述べるのは乱暴であると言える．そのため，今後はより多様な学生に対して調査を行い，検討することが必要であると考える．

謝辞

最後になりましたが，本研究を進めるにあたり，ご指導してくださった指導教員の立木先生，TAの藤本さん，そしてアンケート調査にご協力してくださった全ての皆様に心から感謝の気持ちとお礼申し上げたく，謝辞にかえさせていただきます．本当にありがとうございました．

参考文献

浅野良輔・五十嵐祐・塚本早織，2014,「日本HEMA尺度の作成と検討――幸せへの動機づけとは――」『心理学研究』85巻(1): 69-79.

藤井恭子，2021,「日本の大学生における主観的幸福感の規定要因」『皇學館大学日本学論叢』(11): 107-116.

古市憲寿，2015,『絶望の国の幸福な若者たち』講談社.

岩田考，2015,「大学生の生活満足度の規定要因」『桃山学院大学総合研究所紀要』40巻(2): 67-85.

楠見孝，2012,「幸福感と意思決定―決定スタイルと自己制御モードの文化差―」『心理学評論』55巻(1): 114-130.

南学，2015,「現代の若者の価値観と主観的幸福感の検討」『三重大学教育学部研究紀要』66巻教育科学: 171-178.

――，2019,「現代の若者の価値観と主観的幸福感の検討⑵―生活満足度と協調的幸福感を用いて―」『三重大学教養教育院研究紀要』(4): 53-59.

中坪太久郎・平野真理・綾城初穂・小嶋祐介「幸福感尺度使用の現状と今後の展望」「淑徳大学研究紀要（総合福祉・コミュニティ政策学部）」55巻: 141-158.

内閣府政策統括官（社会システム担当），2023,『満足度・生活の質に関する調査報告書2023～我が国のWell-beingの動向～』.

小川恒夫・園田由紀子，2019,「大学生の主観的生活満足度と自己認知・人間関係・成績―東海大学文学部1年生を対象にして―」『東海大学紀要文化社会学部』(2): 53-66
大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編，2010,『日本の幸福度――格差・労働・家族』日本評論社.
内田由紀子，2020,『これからの幸福について――文化的幸福感のすすめ』新曜社.